

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 52 号 (2012年)

目 次

同窓会長挨拶……………山中 國暉（昭43）……………	1
薬学部長挨拶……………中山 守雄……………	2
平成24年度長薬同窓会定期総会・懇親会……………	3
平成25年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	4
支部だより……………	5
関東支部, 近畿支部, 広島支部, 大分支部, 佐賀支部若楠会, 熊本支部, 長崎県北支部, 長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	14
西村長壽（昭23）, 服部俊明（昭28）, 帆士辰雄（昭30）, 村上 元（昭31）, 武内洋子（昭34）,	
北島四郎（昭35）, 松尾一誠（昭35）, 越中利治（昭36）, 檜崎妙子（昭36）, 吉田研次（昭37）,	
土田拓生（昭38）, 宮本眞秀（昭41）, 井上一顕（昭42）, 小坂妙子（昭44）, 松本逸郎（昭47）,	
相川康博（昭48）, 板倉忠則（昭49）, 緒方信明（昭50）, 山田英之（昭52）, 中嶋幹郎（昭57）,	
中嶋幹郎（昭57）, S59卒業生同窓会幹事一同, 白川奈奈子（平1）, 和田光弘（平4）,	
中尾有里（平7）, 平良文亨（平9）, 水野和美（平11）, 永井 潤（平18）, 矢野玄馬（学部3年）,	
鐘水大介（学部3年）, 稲嶺達夫（平18）, 梶島 力（平4）	
クラブOB会だより……………	52
野球部, 硬式庭球部, バスケットボール部, 軟式庭球部	
庶務報告……………	56
物故者氏名, 学内記事	
長薬同窓会役員名簿……………	58
長薬同窓会支部一覧……………	59
会計報告（平成23年度決算, 監査報告, 平成24年度予算）……………	60
同窓会事務局だより	
編集後記	



ご挨拶

会長 山中 國暉 (昭43)

平成24年6月2日、大分県別府市で開催した長薬同窓会定期総会にて、会長に選出された昭和43年卒の山中です。

大学卒業後、大阪道修町の医薬品卸問屋雙玉堂に管理薬剤師として入社し医薬品の流通という業務に取り組みました。その後昭和48年に長崎市、昭和51年に上五島青方に薬局を開局致しました。昭和49年から長崎市薬剤師会、昭和60年から県薬理事、平成15年から県薬監事として薬剤師会の仕事をしています。昭和63年4月～平成17年まで長崎大学薬学部にて非常勤講師として漢方学の講義をしました。平成18年より同窓会長崎支部ぐびろ会会長に就任しましたが、今回伊豫屋偉夫会長（昭41）の後任として長薬同窓会長にと白羽の矢が立ったわけです。

歴史ある長薬同窓会発展の為、微力ながら力を注ぎたいと存じますので皆様、ご支援とご協力のほど宜しくお願いいたします。

国立大学法人となった長崎大学薬学部では今年3月には6年制となって初めて薬学科39名、4年制の薬科学科44名の計83名が卒業されました。皆様のご指導を宜しくお願い致します。また4月には、薬学科に40名（男22名女18名）、薬科学科に43名（男30名女13名）が入学されました。卒業生も新入生も、希望に満ちた新生活が実り多からんことをお祈りいたします。

現在、同窓会員の数は約5,200名です。全国各地で色々な職業に従事し、国民の健康の増進、環境の保全等に日々活躍されております。ノーベル賞受賞者の下村 脩博士（昭26）は皆様ご承知のとおり私どもの同窓生でいらっしゃいま

す。先生を旗印として同窓会を運営したいと思います。

同窓会は先輩、後輩が同じ大学を卒業したということで心を開いて情報交換の出来る場でもあります。その開けた場で大学と密接な連携をとり、研究と教育の発展に大いに協力をしていこうと考えております。今まで同窓会に振り向いてくれない会員の皆様に「顔の見える同窓会」として関心を持ってもらい、学生に対しては「よろず相談所」的な所として同窓会事務局を開放いたします。その一環として卒業アルバムの補助、薬学祭（11月）への補助など具体的な話を進めております。

このように多くの会員の参加する開けた会にしたいと考えています。特に平成卒の役員も多くなりましたし平成卒の皆様の参加を願っております。

なお、種々の動きについては各役員、支部長、学年理事の皆様のご協力を得ながら同窓会ホームページに掲載し皆様にお知らせします。

来年の総会は佐世保のハウステンボスで開催されます。周りの同窓生にも呼びかけ、クラス会の開催などを企画して頂き、是非ご出席をお願いいたします。

最後に同窓会の皆様のご健勝を祈念いたします。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 中山 守雄

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、同窓会の皆様方には、常日頃より、長崎大学薬学部にご支援いただいておりますことに対し厚く御礼申し上げます。また、本年の3月に、平成18年度に入学した最初の6年制課程の学生を、社会に送り出すことができましたことも、皆様方のご指導、ご協力の賜であると感謝している次第です。

ところで、3月に送り出した卒業生は83名、うち6年制課程の卒業生は39名でした。6年制課程の卒業生の就職先は、病院薬剤部への就職が20名、保険調剤薬局への就職が10名、あと民間企業へ3名、官公庁2名という内訳でした。地域別では、長崎県内での就職が10名で、沖縄を含む九州管内への就職が26名となっております。なお、新国家試験での合格率は92%という結果で、残念ながら目標とした100%合格には至りませんでした。一方、6年制課程の学生と同時に入学した4年制課程の学生は、ほぼ、修士課程に進学し、同じくこの3月に修了しました。高校側から、就職を心配する声もありましたが、最終的に100%の就職率となりました。以上が、大学の出口の状況ですが、入口の状況としての入試倍率は、6年制課程、4年制課程ともに、昨年度より倍率はさらに上昇し、実質倍率でも、4.3倍の高率となっております。

さて、本薬学部は全国の数ある薬学部の中で、ノーベル賞受賞者を輩出した唯一の薬学部として、昨年、下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターを立ち上げました。現在、畑山教授をセンター長として、センターを実質化するための、組織整備などが進められているところです。昨年、植田弘師教授を中心とする研究プロジェクトが、文科省の最先端研究基盤事業に採択されたことをお伝え致しましたが、その後、「感染症、放射線障害を中心とする下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬拠点」の名にふさわしく、精密ロボット等の機器が整備され、精力的な研究活動が進められています。この事業については、この4月にリニューアルした薬学部ホームページに詳しく掲載されています。また、この9月には、中嶋教授を中心とする「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」の取組みが、文科省の大学間連携共同教育推進事業に採択されました。本事業は大学と地域の連携に基づく協働教育により当該地域の中での循環型人材育成体制の確立を目指す取組で、在宅がん医療・緩和ケア分野を支える人材育成につながり地域医療に貢献できるものと期待されています。

今年の4月には、大学院教育に関して大きな変革がありました。大学院医歯薬学総合研究科の医療科学専攻内に、薬学系としてはじめての4年制課程の博士課程となる「展開医療薬学講座」が新たに設置されました。それに伴い、これまで、薬科学専攻に属していた、医療情報解析学、薬物治療学、薬剤学、病院薬学の4研究室が、医療科学専攻へと移行致しました。定員は4名ですが、本年度4名の大学院生を迎え、新生薬学博士号の取得に向けて研鑽を開始したところです。また、修士課程を博士前期課程と名称を改め、その上に3年制課程の博士後期課程となる生命薬科学専攻（定員10名）を設置しました。

最後に、この1年での主な異動について報告いたします。まず、本年1月に天然物化学研究室の教授に、田中 隆准教授が昇任されました。2月には、浅井 将助教が薬品生物工学研究室に着任されました。3月には、昭和48年から長きにわたり研究、教育において薬学部を牽引していただいた医療情報解析学研究室の中島憲一郎教授が定年を迎えられ、ご退職となりました。中島先生には、学部長として薬学部の組織運営のみならず、副学長として大学運営にも重責を担っていただきました。現在、長崎国際大学薬学部教授として研究、教育、組織運営に多忙な日々を過ごしておられます。同じく3月には、連携GPでの職務を全うされた手嶋無限准教授が退職されました。4月には、武田弘資教授が、東京大学大学院薬学系研究科より細胞制御学研究室に着任されました。同じく4月には、大山 要テニュアトラック助教が薬品分析化学研究室の准教授に昇任されました。8月には、城谷圭朗准教授が生物薬品工学研究室に着任されました。城谷先生には、「下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター」の准教授としての業務も担っていただいています。同じく8月には、荒木良介助教が、長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの一員として加わりました。さらに、9月には、田中義正准教授が長崎大学創薬拠点の一員として着任された所です。このように、本薬学部では人事異動だけでなくプロジェクト事業に伴う教員も加わり教育と研究が活発に行われております。

以上、長崎大学薬学部の近況を報告させていただきましたが、今後とも、薬学部に対する、同窓会の皆様方の一層の御支援、御高配を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成24年度長薬同窓会 定期総会・懇親会

本年度は、大分支部（野尻敏博支部長）のお世話で、平成24年6月2日(土)に大分県別府市ホテル白菊で開催されました。約80名の同窓会会員のご参加により、無事終了いたしました。懇親会の余興で大分の伝統芸能「お神

楽」の披露があり、大変盛大な会となりました。その模様を一部ご紹介いたします。内容につきましては庶務報告をご覧ください。



総会の様子



新会長の挨拶



長崎県北支部長 来年度総会のご案内



大分支部長ご挨拶



中山守雄 薬学部長挨拶



懇親会



お神楽



お神楽



お神楽



懇親会



万歳三唱の音頭



万歳三唱

平成25年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 平成25年6月8日(土) 17:00総会 18:00懇親会(予定)

場所 ホテルオークラJRハウステンボス

〒859-3296 長崎県佐世保市ハウステンボス町10番 Tel 0956-58-7111

JRハウステンボス駅の橋を渡った場所に、アムステルダム中央駅を模して造られた素敵な建物です。最上階の懇親会会場からは、ハウステンボスや波静かな大村湾に浮かぶ別荘のヨットなどを眺めることができます。

ハウステンボスや、沢山の美しい島々からなる九十九島めぐりなど、観光を兼ねてお出かけください。長崎県北支部会員一同、たくさんの方の参加をお待ちしております。

支部だより

●● 関東支部 ●●

支部長 樋口 宗司 (昭42)

関東支部では支部総会を、11月17日(土)の午後に、「文庫Caféみねるばの森」で開催しました。当日は強い風雨に見舞われましたが、予定通りに30名を超える同窓生が集まり、和やかな雰囲気の中で会が始まりました。

まず、支部総会に先立って、黒岩幸雄先生(昭30)の特別講演「サリン事件から18年目 薬剤師として学んだこと」を全員で拝聴しました。黒岩先生は昭和大学薬学部の毒物学の教授、同大附属病院の薬剤部長などを歴任された斯界の第一人者であります。講演では、松本サリン事件と地下鉄サリン事件の全貌を振り返り、サリンやVXガスにより多くの尊い命が奪われ、重い後遺症を残す被害者が多発したことを概説。次いで、サリン被爆者には時間が経っても様々な障害が残されていること、それらの慢性症状には視力障害やPTSDなどがあるが、中でも多くの被爆者を苦しめている症状に不定愁訴があること。この不定愁訴の成因は、ミクログリアの活性化による神経機能の障害ではないかと推測され、治療薬として少量のテトラサイクリン(神経保護作用と抗炎症作用に期待)が有望と考え、現在も研究を進めている…と結ばれました。

講演は、サリン事件に深く関与されてきた黒岩先生でなければ話せない内容であり、会場にいた同窓生は、みな深い感銘を覚えました。

特別講演に引き続き、関東支部の総会と懇親会が開催されました。幹事長の原 正朝さん(昭60)の司会で、校歌斉唱や事業報告・会計報告などを行いました。来賓として遠路ご来京いただいた山中國暉会長(昭43)には、貴重なご

挨拶を頂戴し、厚く御礼を申し上げます。

ところで、支部総会の会場「文庫Caféみねるばの森」ですが、このCaféは日本総研理事長・多摩大学学長の寺島実郎さん所有のビルの1階にある喫茶店で、2階には長崎大学の東京事務所が入っています(関東支部の事務局も、この事務所内です)。長大と寺島氏との親密な関係から、都心に長大の事務所を構えることが可能となり、ここから長大発の情報を全国に発信しているというわけです。

去る8月2日には、この文庫Caféで「学長と関東地区同窓会代表者との懇談会」が開催されました。医歯薬経済をはじめ8学部の同窓会支部の代表者17名が一堂に会し、学長から大学の現況についてお話を伺い、その後で各支部の活動状況について情報交換をしました。その折に、国立大学の法人化により国からの運営交付金が30%を切っていること。また、卒業生の就職先が地元志向で、首都圏への就職率が3年前の60%に落ち込んでいる。これは長大の「全国さらに世界への飛躍」に逆行する動きで、卒業生が首都圏の厳しい就職競争に割って入れるように、東京支部と同窓会とのコラボレーションで改善出来ないだろうか…、等のお話を印象深く聞いていました。

11月17日の支部総会では、それらの話を紹介して、長薬同窓会の関東支部には大学の応援団としての役割が強く求められていることを訴えました。会場におられた多くの同窓生から賛同が得られたように感じましたが、これからの同窓会にとって大学の応援団としての役割は重要な課題となるように思われます。

幸い、今回の関東支部の総会には数人の若手会員が新たに参加され、その中には支部の役員を引き受けてくれる人も現れてきました。和やかに歓談した懇親会の締めは、出席者の中で最も若い宇佐昌芳さん(平7)にお願いしましたが、今後も若手の参加者が増えることを願ってやみません。



平成24年11月17日 於 文庫Caféみねるばの森

●● 近畿支部 ●●

支部長 梶野 繁 (昭42)

長薬同窓会特別講演、支部総会・懇親会は平成24年10月13日(土)大阪弥生会館で開催いたしました。支部会員の出席者は例年より少ない27名でした。

総会に先立って行われた特別講演は、これまで長大薬学部出身の教授の先生方をお願いしてまいりましたが、今回は実務的な講演ということで【高齢者社会における薬剤師の役割を考える】とのメインテーマのもとに、吉岡 優先生(昭56, ネオフィスト研究所)には、「保険薬局における在宅医療への取り組み」という演題で長崎大学での多職種連携や、ドイツの介護の視察、在宅での薬剤管理指導などのお話を、廣本淳子先生(昭44, 岸和田徳州会)には介護施設での勤務での経験をお話していただきました。これからの超高齢化社会の到来を考えると、介護施設不足、介護士の現状、経費の問題などを聞いて身につまされる思いがいたしました。

総会では、今年6月、長崎で開催された同窓会総会で

選任されました山中国暉新会長(昭43)からごあいさつを賜りました。同窓会の活性化を第一の目標として活動すること、支部での支援をお願いする旨の挨拶がありました。今後、本部と支部が一体となり同窓会の活性化を図っていく必要があります。

総会では第1号議案～第5号議案は原案通り承認されました。

懇親会は山戸 寿先生(昭30)の乾杯の音頭で始まりしました。松本みさきさん(平17)の司会で参加者の方から近況報告をいただきました。参加者は昨年に比べて少なかったが、大いに歓談していただき、大いに盛り上がりました。

特に、今回は90歳を越えて出席していただきました石津一貫先生(昭16)、懇親会で花の写真集の発刊についての話をいただいた河内先生(昭13薬専15回卒)、大先輩2人に元気な姿を見せていただき、たいへん嬉しく思いました。

最後は林田 久さん(昭62)の万歳三唱で終わりました。

また、今年も会員の交流と親睦を図るため、会報17号の発行を予定しています。



平成24年10月13日 於 大阪弥生会館

●● 広島支部 ●●

支部長 青野 拓郎 (昭52)

長薬広島支部同窓会を平成24年10月21日(日)にホテルニューヒロデンで開催しました。長薬同窓会編集幹事の和

田光弘先生(平4)をお招きして昨年より3名多い15名での会となりました。

橋口先生(昭36)の司会のもと始まりしました。支部長挨拶、続いて工藤先生(昭32)の乾杯挨拶の後、会食懇談となりました。

歓談の最初に和田先生から現在の長崎大学薬学部の様子や長崎大学ホームカミングデーのお話がありました。そ

の後、それぞれの仕事の話、趣味の話、家庭（主に孫？）で盛り上がりました。

近況報告では、それぞれ最初に出身教室の話をされました。懐かしい先生方の名前が出てきて盛り上がりました。夫婦で北海道旅行、イタリア旅行された品川先生（昭44）のお話をはじめ、現在の仕事の話やご自身の病気の話、ご家族の病気の話等、様々な出来事の話をお聞きました。

写真撮影、校歌斉唱のあと、品川先生に閉会の挨拶をして頂きました。来年こそは、みんなで近くの学年の方、同じ教室出身者を誘い合って参加者を増やしましょうねと声を

掛け合いながら解散となりました。

出席者

工藤 重子（昭32）	安田 宣子（昭47）
橋口 信彦（昭36）	青野 拓郎（昭52）
左利 龍彦（昭38）	渡辺真由美（昭52）
村上 剛（昭43）	後河内厚行（昭53）
品川龍太郎（昭44）	岸川 映子（昭60）
森崎 孝幸（昭45）	瀧口 益史（院平5）
曾根 正勝（昭48）	手島 賢二（平8）
長薬同窓会編集幹事	和田光弘先生（平4）



平成 24 年 10 月 21 日 於 ホテルニューヒロデン

● ● 大支部 ● ●

幹事 阿部 敏幸（昭50）

平成24年1月28日(土)、大分市内の大分第一ホテルにて、恒例の新年会を兼ねた支部総会が開催されました。

長年支部活動にご尽力頂きました故後藤先生（昭23）への黙祷の後、野尻支部長（昭48）より「同窓会総会も半年後となりました。全員の力を結集し成功させたいと思います。会員の皆様のご協力をお願いします。」との挨拶があり、伊豫屋会長（昭41）からも「大分支部の協力により別府で同窓会総会が開催されます。最後までよろしくをお願いします。」と続き、庶務・会計報告で総会は終了です。

恒例の記念撮影の後、長老西川先生（昭26）の乾杯の

ご発声で新年会が始まり、酒・食がすすみ、宴が盛り上がったところで、卒業年次の若い順に近況報告を混じえた自己紹介が行われました。今回は、野上先生（平6）、百武先生（平21）、山村先生（平21）と3名のニューフェイスも参加され例年以上に盛り上がりました。今後も新しい方の参加お待ちしております。

今回は、会長から同窓会総会・懇親会での役割分担の依頼があり支部長中心に人選を行うと、迷うこと無くその場で即決でした。ここが大分支部の良いところでしょう。

最後は、堤先生（昭62）の「巻頭言」により校歌合唱、万歳三唱でお開きです。あっと言う間の3時間でした。

4月には野尻支部長と私で長崎に出向き、同窓会の理事会で、総会に向けての準備状況等を説明し、余興では大分の伝統芸能である「お神楽」を予定していること、

「おんせん県」大分で温泉につかり“ゆったり”過ごして頂きたいこと、卒業年次毎の同級会を計画され多くの方に参加頂くようにお願い致しました。

6月2日の別府での同窓会の様子は、長薬同窓会のホームページでご存知のことと思いますので割愛いたしますが、交通の便の悪い大分にもかかわらず、全国より74名と多数の先生に参加して頂きありがとうございます。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

最後になりますが、8年後大分でまたお会いしましょう。それまでお元気で！！。



平成24年1月28日 於 大分第一ホテル



平成24年6月2日 長薬同窓会定期総会 於 ホテル白菊

●● 佐賀支部若楠会 ●●

幹事 西依 健(院昭54)

平成24年度佐賀支部若楠会は、JR佐賀駅近くの「グランデはがくれ」に長薬同窓会伊豫屋会長(昭41)をお迎えし4月21日(土)に開催しました。会の名前にふさわしく新緑のまばゆい時期での開催で、今年度同窓会ではトップバッターだそうです。

参加者は20名と若干小規模でしたが、支部の顧問をお願いしている江口 皞先生(昭30)に出席いただいたことで和やかな中にも引き締まった会になったのではと思います。ぜひ先生には次回も出席いただけるものと信じております。

伊豫屋会長のご挨拶で、大学の近況として6年制の一期生39名が卒業したこと、中島憲一郎先生(昭46)が退職されたことで長大出身の教授は中嶋幹郎先生(昭57)だけになったこと、また昨年3月に環境科学部教授を退職された富永義則先生(昭44)が郷里の鹿島で開局され

てることを話して頂きました。次回の支部会で富永先生にお会いできることを楽しみにしています。伊豫屋会長は今期で退任され、山中國暉先生(昭43)にバトンタッチされるそうです。休眠していた佐賀支部会は伊豫屋会長の後押しもあり復会して3年になりますが、お忙しいなか毎回支部会へ参加していただき本当に感謝しています。6年間の会長職ご苦労さまでした。

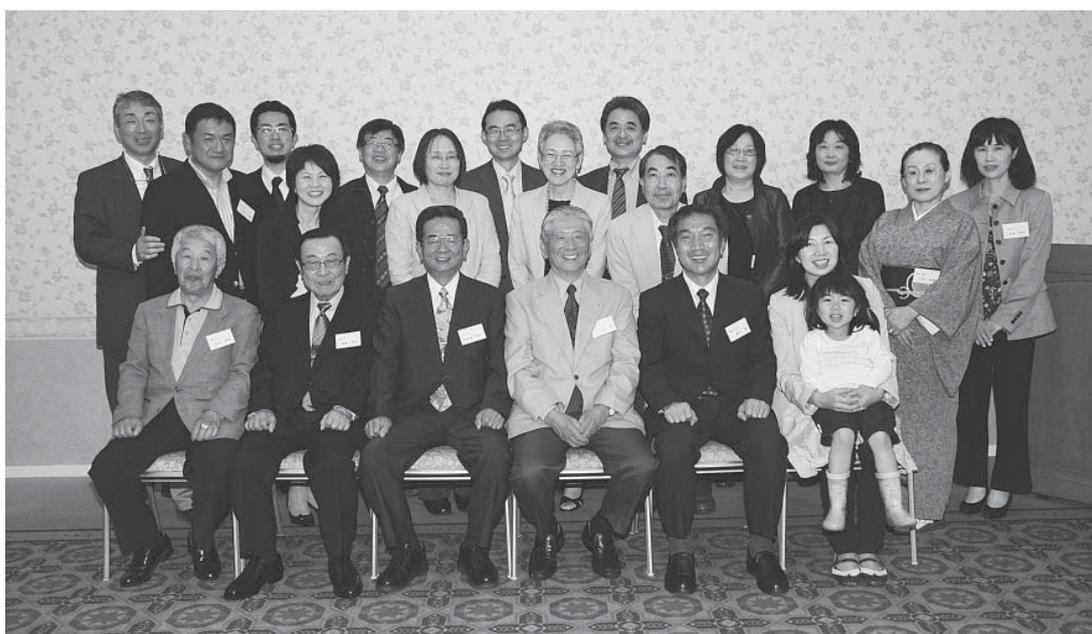
総会では、その他の議題として「出席者の拡大」が取り上げられました。その中で、案内状の出欠返信を頂けない方が多く、さらなる声かけの必要性や会員皆で出席しやすい雰囲気を作っていくなどの提案がありました。また、開催時期を定着させる案、土曜日開催では仕事や勉強会に重なる方もあるので日曜日の昼間開催という解決案もありました。いずれにしても会員各自の同窓会への思いに委ねるしかありません。昨年も記させていただきましたが、先輩・後輩との話は楽しいものです。同じ大学出身というだけで話題は膨らみ、たくさんの経験談を聞かせていただく貴重な機会です。今回はお子様一緒の若い先生の参加もあり、和やかさも倍増でした。男性では下平伊知郎先生(平10)が一番の若手でしたが、

復会してから毎回参加いただき、県薬のホープとしてもたのしい限りです。これからも若い先生方への声かけも合わせて参加いただく事をお願い致します。

今回の「支部だより」は終始同窓会出席へのお願いになってしまいました。せっかく伊豫屋会長に声かけ頂き復会した若楠会です。「クスノキ」は佐賀のシンボルです。ぜひ佐賀支部若楠会を継続していくために会員全員で、とくに若い会員の力を貸して頂けることを願うばかりです。

参加者氏名（敬称略）

江口 嶸（昭30）	福島 祐作（昭37）
田中 博輝（昭39）	伊豫屋偉夫（昭41）
大坪 美穂（昭47）	八谷 緑（昭50）
福田 博美（昭50）	藤戸 博（院昭52）
末安 正典（昭52）	末安 智子（昭52）
西依 健（院昭54）	吉田 泰史（昭55）
大田寿美子（昭56）	近藤 雅也（昭61）
近藤 恵美（昭61）	御厨恵美子（昭61）
佛坂 浩（昭61）	志岐 寿子（平4）
下平伊知郎（平10）	藤平 優子（平11）



平成 24 年 4 月 21 日 於 グランデはがくれ

●● 熊本支部 ●●

支部長 山本喜一郎（院昭55）

平成24年度の熊本支部例会・懇親会は、9月の第一土曜日、9月1日(土)に熊本和数奇司館の2階金峰の間にて、出席者総勢13名の出席で開催しました。会場の熊本和数奇司館は、平成20年度の例会でも使用しましたが、和室大広間の薄い仕切りでうるさかったので、今回は個室テーブル席にしてもらいました。

開会に先立ち、森崎恭治氏（昭16.12）のご逝去を悼み黙祷を捧げました。開会の挨拶の後、昨年に引き続き同窓会本部から来ていただいた機能性分子化学研究室の梶島 力先生（平4）から大学の近況報告をしていただきました。今年は薬学6年制となって最初の卒業生が出た年でもあり、その状況をお話いただきました。特に、

例年70%台であった国家試験の合格率が、今年は何と新卒で92.3%、総数でも80.9%と高かったそうで、特筆すべきことでした。薬学6年制での最初の国家試験でどれくらいのレベルでどのような問題が出るのか、学生も先生方も心配されていたようですが、ヤレヤレー安心といったところでしょうか。巷では、来年も易しいのではないかと噂です。

このあと、乾杯の音頭を岩下淑子さん（昭52）にお願いし、会食・歓談となりました。そして、恒例の近況報告です。今年、熊本支部例会初めて新卒者の参加がありました。大元崇裕（平22院平24）くんです。今年修了後、化血研に入所されました。熊本支部では新卒者をご招待で、会費無料となっていますが、その第一号です。新卒者の方は現住所が掴みづらく、同窓会事務局では連絡先（親元）の住所しか分からないのですが、たまたま私は一昨年まで化血研に勤めていましたので新卒者入所の情報が入手でき、電話で直接勧誘することができました。

初顔は、古海勝彦さん（昭61）、浅野郁星くん（平16）、大元崇裕くんの3名でした。当初、有馬俊裕さん（平1）も初めて出席される予定でしたが、当日体調不良とのことで急遽欠席となり、残念でした。

古海さんは、北九州在住で福岡支部に属されていますが、なんと新幹線通勤で熊本の職場まで毎日通勤されているとのことで、驚かされました。浅野くんは、化血研で人体用ワクチンの製造に携わっているそうです。大元くんは、人体用ワクチン部門で製造現場を体験中で、来年度正式な配属が決定することでしょう。

岩下さんは、一人薬剤師で頑張っておられ、毎年この支部会を楽しみにされているそうです。秦野さん（昭56）は、卸でDI業務をされており、私もお世話になっています。木山ご夫妻（昭57・昭59）は、今年も天草から来ていただきました。新店舗開店で忙しくされているそうです。松尾くん（昭59）は、統計関連の仕事で相変わらず東京と熊本を行ったり来たりのご生活のようです。矢田さん（昭60）は、忙しい薬局業務の傍ら、色々勉強なさっているようです。山内さん（平2）は卸の天草支社で管理薬剤師をなさっていますが、今年も来ていただきました。熊本県薬の研修会で時々お見かけします。上村さん（平6）は、第2子を無事出産され、仕事にも例会にも無事復帰されました。私、山本は、熊本県薬剤師会の医薬情報センターで、慣れない仕事（もう1年半経ったというのに！）に四苦八苦しています。

支部例会常連の、宮崎賢三さん（昭50）、平野玲子さん（昭52）、古川真一くん（昭54）、久松貞義さん（昭60）、前田健次さん（平5）、上仲小玲さん（平6）が諸般の事情で残念ながら今年是不参加でした。昨年崇城大学に赴任してこられた中嶋弥穂子さん（院昭61）も業

務の都合で不参加でした。来年の例会でお待ちしています。

皆様ご存知と思いますが、今年7月に熊本県は大雨による洪水で大きな被害を受けました。熊本の会員で被害を受けられた方もいらっしゃると思います。上仲さんのご実家が洪水被害を受けられたそうです。被害を受けられた皆様、心からお見舞い申し上げます。私の友人の熊本大学職員宅も被害を受け、一時陸の孤島と化して自衛隊のヘリコプターが出動して救助にあたったそうです。長薬同窓会熊本支部の皆様、例会は毎年9月の第一土曜日に開催していますので、是非ご参加下さい。ちなみに、来年は9月7日(土)です。また、他支部の方で、当日熊本にいらっしゃる方も大歓迎ですので、山本までご連絡下さい。熊本に就職なさる新卒の皆さん、住所が決まったら直ぐ同窓会事務局に連絡をお願いします。そうすると、招待状をお送りすることができます。来年は出席者20名超えを目指していますので、よろしくお祈りします。みんなで、わいわいガヤガヤ楽しくやりましょう。

参加者（13名、敬称略）

岩下 淑子（昭52）	山本喜一郎（院昭55）
秦野 正敏（昭56）	木山 容子（昭57）
木山 雄一（昭59）	松尾富士男（昭59）
矢田 道代（昭60）	古海 勝彦（昭61）
山内 秀樹（平2）	梶島 力（平4）
上村 裕子（平6）	浅野 郁星（平16）
大元 崇裕（平22）	



平成24年9月1日 於 熊本和数奇司館

後列左より、古海、木山（容）、岩下、矢田、上村、大元、松尾
前列左より、秦野、木山（雄）、山本、山内、梶島先生、浅野（敬称略）

●●長崎県北支部●●

支部長 相川 康博 (昭48)

平成23・24年度長崎県北支部同窓会報告

今年は2回、平成1月22日に平成23年度同窓会を、10月27日に平成24年度同窓会を、いずれも佐世保セントラルホテルで開催しました。

まず、1月22日の同窓会について報告します。出席は、伊豫屋長葉同窓会長(昭41)、編集幹事の和田光弘先生(平4)を含めて25人でした。この会で初の試みとして会員報告をお願いすることにして、昭和50年院卒の長崎国際大学教授で同大学薬学部の立ち上げ時から学科長として尽力され、6年制になってから最初の卒業生を送り出す直前の榊原隆三先生に、これまでの苦労話と今後の薬剤師の展望について、講義をしていただきました。4年制の良き学生時代を謳歌できてよかったと、ホッとして聴いていたのは私だけだったでしょうか。



1月22日会員報告

会に先立ち、亡くなった森雄三郎先生(昭23)と、3.11東日本大震災で亡くなった方々に黙祷を捧げました。

続いて今泉支部長(昭31)が挨拶され、唐突に支部長を私に譲るからとの話をされ、それは今日の別議題になって

いますからと制止する場面がありました。今から思うと、体調の方がよほど悪かったのだろう、何としてでも早くどうにかしなければ、ただその一心だったのではないのでしょうか。

続いての来賓祝辞の中で、伊豫屋会長から来年の定期総会を県北支部が担当してもらえないか相談がありました。またこの日は、今上 亨先生(昭25)の厚生労働大臣表彰受賞の祝賀会も兼ねており、皆さんから寄せられたお祝い金も併せて買い求めた記念の品をお贈りしました。

続いて次期支部長選任に移り、今泉支部長の挨拶の中で突然発言されたことではあるものの、車椅子の支部長の姿を目の当たりにすると無下にお断りするわけにもいかず、力不足ながら引き受けることにしました。そして、来年の定期総会を佐世保でという会長のお願いをどうするか諮ったところ、皆さんから協力していただけるとの賛同を得ることができたので、会長に引き受けることを返事しました。6月の別府での定期総会において、支部長として佐世保での開催をアナウンスして来ることになりました。

このあと、和やかに各自の近況報告を交えつつ、テーブルに運ばれてくる料理を食し、飲み放題の酒を飲み交わしながら賑やかに歓談しました。

出席者

大庭 義史 (特)	今上 亨 (昭25)
松田 雄光 (昭25)	貞方 典 (昭26)
末武 和子 (昭29)	今泉貴世志 (昭31)
林田 匡代 (昭36)	松本 功治 (昭41)
島田志津枝 (昭45)	田代佐夫子 (院昭48)
相川 康博 (昭48)	橋本 次男 (昭50)
榊原 隆三 (院昭50)	小笠原正良 (院昭51)
東 三郎 (昭56)	松本 直樹 (院平1)
松本 玲子 (平1)	井手 指月 (平2)
山口 拓 (平8)	田代 泰理 (平15)
中村 沙織 (平16)	大神 正次 (平16)
中村 心一 (院平17)	



1月22日 於 佐世保セントラルホテル

続いて、10月27日の同窓会の報告をします。当日出席者は、山中長薬同窓会長（昭43）を含めて18人でした。20人で準備したのですが、当日欠席があっちょびり少なくなりました。

中島憲一郎先生（昭46）が3月で定年退職されて、4月からは佐世保の長崎国際大学薬学部の教授として続けられることになり本支部の会員になられたので、会員報告第2弾として、学部長、副学長として大学の大変革に関わられた経緯について、母校の近年の変遷とこれからの薬学教育についてと題して、講義をしていただきました。文教町のキャンパスに新築され、私たちが入学した年の途中、昭和町の旧長崎師範の校舎から移った現在の校舎も、古くなって骨組みだけを残して大改修したことや、薬学部で、しかも地方大学から初めて下村先生がノーベル賞を受賞されたことなどを報告されました。

そして、8月に亡くなった今泉喜世志前支部長と宮本徳次郎先生（昭23）、長門美智代先生（平8）のお三方を偲んで、全員で黙祷を捧げた後、支部長挨拶をしました。そのなかで、6月に別府であった定期総会に出席した折に、来年の定期総会を本支部が担当してホテルオークラJRハウステンボスで開催することを発表してきたこと、その時は皆さんのご協力をお願いしなければならないことを話しました。

その後、伊豫屋会長からバトンを引き継がれた、山中國暉新会長から来賓の挨拶をいただきました。続いて、集合写真を撮るために最前列に椅子を並べて、都合3列

で写真を撮りましたが、今年1月の同窓会の時は、今泉先輩が最前列の椅子席の左端に座って写っておられたことを思い出してしまいました。

ここまでおよそ1時間が経過したところで、前々支部長の今上先生から乾杯のご発声をいただき懇親会に入りました。しばらくたったところで、順番に近況報告をしましたが、その中では、ゆっくり生活を楽しんでおられる方、まだまだ現役を続けている方や現役真っ最中の方、社会人博士課程に進む方など様々報告してもらいました。

また、山中会長からは、毎年8月の原爆忌前にグピロが丘の記念碑の清掃をしていることを報告され、その丘のことを知らない世代になってきたことを憂えておられました。

最後に、松田雄光先生（昭25）の音頭で万歳三唱して散会となりました。

出席者

大庭 義史（特）	今上 亨（昭25）
松田 雄光（昭25）	末武 和子（昭29）
林田 匡代（昭36）	副島 敬子（昭39）
松本 功治（昭41）	護山 順子（昭44）
中島憲一郎（昭46）	田代佐夫子（院昭48）
内田 節子（昭48）	相川 康博（昭48）
榊原 隆三（院昭50）	東 三郎（昭56）
相葉 啓子（昭58）	井手 指月（平2）
山口 拓（平8）	



10月27日 於 佐世保セントラルホテル

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

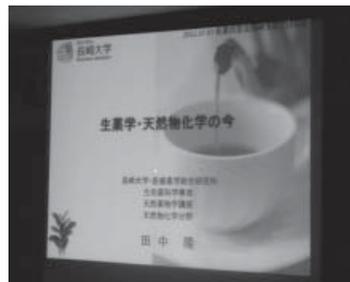
会長 濱田 哲也 (昭54)

長薬同窓会長崎支部はぐびろが丘にちなんで長崎支部ぐびろ会といます。

今年度より長崎支部ぐびろ会の会長を拝命しました、昭和54年卒の濱田です。ぐびろ会の会計を十数年務めておりましたが、多くの先輩諸氏を飛び越えての会長職に、戸惑いと責任を感じております。

さて、ぐびろ会では、前会長の山中國暉先生(昭43)、前々会長の伊豫屋偉夫先生(昭41)の事業方針を踏襲して、毎年、総会にて学部の先生に講演をお願いしております。地元長崎の利を生かして、薬学部の先生から直に「今、薬学部ではどういう教育がなされているのか」を講義していただいています。短い時間ではありますが大変興味深いお話で、出席者の方々には大好評であります。また5年生、6年生及び大学院生にも総会と懇親会への参加を呼びかけ、同窓会与学部学生との交流を深めております。若い人たちの参加で活気のある総会が実現できているものと思います。

ご存知のように、同窓会会員の平成卒業生はすでに全体の半数以上を占めるようになっており、会の発展には若い人たちの参加は欠かせません。今年度よりぐびろ会は会長以外のすべての執行部を平成卒業の方にお願ひしました。私は会長として、昭和と平成の橋渡しの役割を果たしていく所存です。



7月7日のぐびろ会総会には、卒業生24名と学部生22名、合わせて46名の参加がありました。半数が学部生であったこともあり、従来とは違った雰囲気を楽しめました。学部生たちは将来の就職やあるべき薬剤師像等を積極的に発言し、先輩諸氏の経験豊富なお話に熱心に聞き入っていました。学部生たちは卒業後には離ればなれになることなのでしょうが、きっと任地での同窓会に喜んで参加してくれるものと確信しております。

これからも長崎大学薬学部を卒業して、ぐびろ会の、そして長薬同窓会の一員であることに自信と誇りを持つような会の発展に努力していく所存です。



クラス会および近況だより

「追憶」

西村 長壽（昭23）

会誌を総て読んだわけではないが、昭和23年卒業生の入学から卒業までの特異性を説明した文が無い様なので、記憶のあるうちに記して置きたい。（記憶に違いが有ればご訂正願いたい）

我々23年卒は、中学5年卒と、特別措置で4年での卒業生が同時受験して一学年として編成された学年である。ここがまず他学年と大きく違う。私は5年卒です。この4・5学年は昭和19年10月以降（軍需工場への学徒動員で、それまでは勉学と動員と繰り返されながらもまだ中学生生活を楽しむ時間が与えられていましたが、それが無くなり）完全に毎日工場出勤を命ぜられ働くようになりました。全国の中学生が同じだったと思います。受験が済み合格した海兵・陸士・予科練の諸氏は翌年3月卒後入隊予定を待たず、より早く入隊したと記憶します。

私は長崎県立瓊浦中学5年生で、大橋三菱兵器製作所（航空魚雷製作工場）鑄造工場に配属されました。3K戦場の溶解場の仕事は、今の世の中では殆ど使用しないコークス炉で銅合金を溶解する仕事で、鍛造工場とともに一番嫌われた職場です。良く耐えたと今でも思っています。昭和20年4月以降、今度は薬専学生として引き続き同じ職場で働きました。中学同窓で薬専入学後10人くらい大橋兵器で被爆した学生がいます。他県や他校から来た学生がいたはずです。そして被爆しています。



鑄造工場働く様子「被爆者が描く原爆の絵」作品
長崎原爆資料館所蔵

我々の学年は昭和20年3月、焼ける前の本校舎で受験、4月入学式に1日出ただけで、動員先で働き本校舎での学習は全く受けておりません。学生としての管理は中学の先生のままでした。薬学の先生は工場にはおられませんでした。医学専門部が、角帽をかぶって通学しているのがどんなに恨めしかったか、でもそれが生死を分けた道だとは勿論知る由もないことでした。中学の同級で医専に行って、生き残ったのは2人だけでした。小生家族は家族6人が被爆、母が即死、子供は被爆したが生き残りました。私は職場で被爆し生死をさまよいましたが生き残って今日が有ります。8月15日終戦、昭和20年10月学校再開は佐賀市多布施の日東工業工場宿舍跡で行われ、3年生から1年生まで集まり、われわれ1学年は除隊帰還した諸氏の試験編入があり通常の2倍近くに学友が増えました。国鉄佐賀駅で引揚者援護同盟として、大陸引揚者の援護に当りました。短い佐賀仮校舎生活でしたが、全員語れば長い思い出多い月日を過ごしたと思います。

医専専校、薬専九大編入か？の中、大学関係者、先輩諸兄の長崎復帰運動に現役学生として微力ながら参加、長崎復帰運動や再建費用募金等に先輩の皆様方に寄付を御願いに長崎県内、熊本県まで参上させて頂く等各自手分けし頑張りました。他の同級生先輩も同じです。

諫早小野島校舎確定の為同じ場所の進駐軍跡地のホスピタルに（後に小野島校舎の静養室になった）籠城シアピールした事もありました。昭和22年卒の伊藤好古先輩がリーダーでした。長崎大学薬学部百年史の中の「追憶」に伊藤好古先輩の文が御座います。伊藤先輩は中学での先輩でもありますが、文を読ませていただく間に、1年違っただけで昔の校舎に学んだ者と我々校舎教室を知らない者の思い出の場所に違いが有りました。我々の知らない防空壕や薬草園の語らい等先輩との共通の話がもてないのが残念です。小野島・現長崎と歴史は移っています。年代それぞれの思い出が残っていく事でしょう。小野島入学生の中からノーベル賞受賞者が生まれた事は、諫早小野島に在学した者同士の共通の誇れる話題として語れる事で、小野島校があったからと運命を感じることがあります。夢のような出来事です。

もう一つ長崎在住で工場に動員されたわが学年の被爆記録がどの様に記録として残っているのか知りたいと思っています。もう先がないのに知る必要も無く知っても役に立つ事では有りませんが、あのような想定外のダメージ

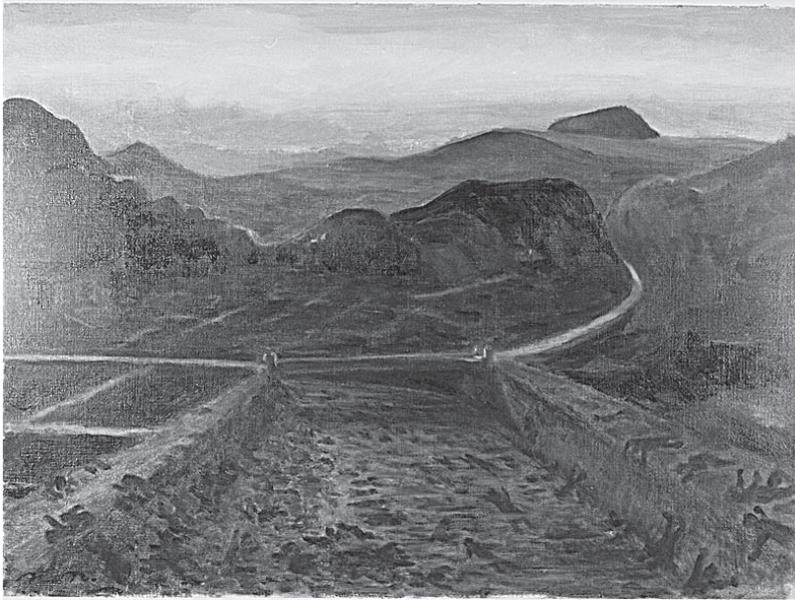
を受けた時、十人十色と言いますがその行動をそれぞれ知っておくのも薬学徒の使命かも知れません。

私事ですが、長崎原爆資料館に「被爆者の絵」として製作した油絵10号5点と国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館に被爆体験記を収納して頂いております。同級生でその様な方があれば知りたいです。

長崎大学内に核廃絶研究センター（RECNA）ができたそうです。薬学部の役割も生まれて来るのでしょうか？こ

なければ嘘になります。経験値を大事にしないと大変な事に為ることを薬学部では教えてきています。是非後輩諸氏にこの場でもご活躍を御願ひしたいです。歴史ある長葉のただ1学年だけですがこのような学年があった。そしてそれぞれ社会に貢献し殆どが現役を引退もしくは他界していますが、昭和23年卒の一端を先輩ならびに後輩にご記憶いただければと思ひ書かせていただきました。

平成24年7月16日 月曜日



（作者コメント：原文のまま）『浦上谷の惨劇』
場所 国鉄大橋鉄橋から城山町方面時間午後6乃至7時頃体を乗り越えやっとなら鉄道線路の上には上がった時、地獄の川を見た。どす黒く硬直した死体、水際に並んで頭を突っ込んでいる死体、川の流れを埋めつくす黒い影が真っ赤な夕日に照らし出された光景は麻痺しかけた神経に動揺を与えた。下大橋の袂から我が家の防空壕の穴が見えたが動く物はなく、裸足、裸の体では熱くて進む事は出来なかった。浦上谷で惨殺された十数万人の人々の魂が燃え上がっているように岩屋山が真っ赤に映えていた。（H14年度、NHK、長崎新聞社などと共催して募集した「被爆者が描く原爆の絵」作品）（長崎原爆資料館所蔵）

エッセイ 3 点

服部 俊明（昭28）

知名度と力関係 24-11

仙台も大都会である。一日街を歩いても知り合いに会えることは珍しい。中でも大勢の中から目が合い懐かしそうに挨拶できる方は希である。

こんな中で有名人から微笑んでお互いに挨拶できるのは、自分まで有名人の端くれになった気がして秘かに嬉しくなる。テレビに良く出る政治家、学者、知識人をはじめ時の人、スーパータレント等である。

そこで考えた。私など無名の人間は何処で何をしようが何を発言しても、共感や批判と言う反響は殆んどない。云うならば無重力無制限の真空状態の中を彷徨っているようなものである。これは考えようだがストレスの全くない天衣無縫状態の気がする。極楽トンボで、長生きの素かも知れない。

一方有名人は何処を歩いても照明100%のガラス張りの舞台を看板を着けて歩いている訳だ。非対称的な方に一々相手の反応に応じていたら身が持たない。そんな訳で変装して歩く人もいる。先般、じゅんくどう書店で五木寛之氏に出会った。でも彼は身を隠すように変装紛い

だった。読者の一人として「青春の門」の舞台である筑豊に付いて言葉を交わしたかったが、そのまま静かに尊敬の眼差しで見送った。

その外、思い起こせば現役で在職していた20年以上前の話になるが、会社は行事で、総会の後に懇親会や立食パーティーを開いていた。こんな時は自分を売り込む絶好のチャンスである。従って人事権を持つ最高幹部のところには上昇志向の連中がたむろして門前市をなす。情熱と業績がある昇進患者が取り巻いて順番を待つ。効果はてき面であり、その中から抜擢も行われる。就活や面接でも同じだが、人や品物は並べて比較し、眼を見て問題を投げかけ2～3の応答で、手にとって見れば一番良く分る。（そんな訳で如何なるご馳走も自分で食べる暇はない。手に持ったコップに口を付けるだけである。）もう次の患者が順番を待っている。話し足りない分は後で社長室に来るようになる。その一方で出世を諦めた連中は同病相哀れむ、のたとえ彼等同士が輪になって屯し二次会の場所等の相談をしていた。

でもここで、利害関係や派閥、波長が合わない時には

無理をして近づいても取り巻きに排除されて火傷をすることもある。しかしやはり『一生懸命な人の周りには一生懸命な人が集る。』と言う傾向は否めない。そして『楽しいから笑うのではなく笑うから楽しい。』のも事実である。

私はそれ程偉くは成らなかったが、自分が中心にいて、周りから仲良くされる（オベンチャラ）を待つよりも私自身から標的人物のところには積極的に赴いて話を聴く事に努めた。今彼らは私をどのように評価しているかは分らない。中には尊敬/反感を抱いている人は交々だろう。でも年賀状は今もって意外な人からも含めて毎年300枚は交換している。少し整理しているが中々減らない。

人の一生は「棺を覆ってその真価を知る。」と言うが今ではそれさえも不用、評価などはどうでもよい。人に負担や迷惑を掛けたくない。戒名も要らないと思うのだが自分の死後はどうにも成らない。自分では自分を送れないし悲いかな人任せとなる。こうして歴史の中に埋没し、忘却の彼方へと旅立つのだ。少子化はそれに拍車をかける。

尖閣諸島問題 24-10-9

我が国は地権者から20億円で購入した。この結果は蜂の巣状の世界的な諸緊張を招いている。だが、今までに中国の鄧小平主席から小異を残して大同に付くと言っていた筈である。政権と時代が変わり丹羽大使の公用車から日の丸の国旗がもぎ取られた。此の背景には中国では反日感情が国内事情も絡まってかなり高まっていたはずである。

こんな中、石原都知事が都議会も開かず国が動かないなら都が購入するとして、強引に国に圧力をかけた。しかし国はしばらく動かなかった。そして野田総理は歴史的にも国際法的にも我が国固有の領土だと言っていた。ならば、いかがわしい地権者からの購入の蓋然性は無かった筈である。政治は結果責任、此の大混乱の外交と経済閉塞の責任をどう取る積りか？どなたも追及しないのは不思議である。愛国心を振りかざし民主党攻撃、自民党幹事長の息子（仲見氏）可愛さの余り党派謀略に嵌められたと言う気がしてならない。

それに中国及び台湾も同島は中国、台湾固有の領土だとして今もって警戒水域を侵犯、挑発している。その上、一步も退かない態勢でしつこく攻勢を掛けている。日本の海上警備艇は再三に亘り退去を警告するが、中台共に、それは此方の台詞だとして譲らず、険悪な様相となっている。日米安保の立場からアメリカはオスプレイ12機を沖縄の普天間に堂々と配備して飛行訓練を開始している。

これは極めて危険度の高い、抑止効果と言うべきである。当に一触即発である。一旦米国が武力介入となれば、嘗て日本が柳条湖爆破事件で日支事変になり中国と

の泥沼戦争となり、やがてアメリカの真珠湾に先制攻撃を加えての太平洋戦争となったのではないのか。

愚かな人間は誤った歴史を繰り返す。核保有国の間で紛争が起これば、ついには恐るべき核戦争に火が点きかねない。そして人類の存続さえ危うくなる。

ここに於いてアメリカがイラクやアフガニスタンでの軍事介入と同様な経過を辿れば、当該地区を火の海としても解決が付かず、もはや是までと退去してしまうであろう。後は現在の荒れ果てた両国を見れば結果は明白である。

紛争の時、最も損害を被るのは元来どちらでも良い筈の地域住民である。「ある日突然、戦争がやってきた」と言う唄の文句そのままである。そこで紛争に見切りを付けてアメリカが撤退すれば日本と中国が諸に衝突となる。その結果お互いに再起不能の荒廢の焦土となる。そしてその時アメリカは「棚からぼた餅」の漁夫の利を得るのである。つまりパックスアメリカーナの再来である。

愛国心に武勇が絡まったナショナリズムは国内向けには格好の良いスタンスである。しかし大局的に見た時、かつて日本は加害国だった贖罪を忘れてはならない。小異を残して大同に付く賢明な選択肢を選ぶべきである。「日中友好40年、心の交流の火を消してはならない。」と言う村上春樹氏に限りない賛同を覚え彼にノーベル平和賞をと願う者である。

戴帽式と医療の周辺 24-11-11

清楚な看護師さんに井上ひさしは勤務した国立釜石療養所時代に憧れていたという。しかし其処では医師が頂点に君臨して事務は埒外だった。それで井上は転向して東京に出たと言う。そう言う私は昔、映画『愛染かつら』を何回も見たものである。主演は高石かつ枝役の田中絹代と津村幸造医師役の上原謙である。当時銀幕のスクリーンに映る白衣の天使は眩しかった。その帽子と制服は医療の象徴として何とも清々しかった。

現在では女子中高生の間では進路についての希望先に看護師と学校の先生が最も人気が高いという。やはり人の為になり、信頼され、お役に立つからであろう。

ところで最近ではナースキャップの売れ行きは年間14,000個に減って10年前の7分の1だと言う。此の理由は恐らく男女共学になり、アメリカに習い看護師の職域が医師以上に、活動分野も広がったからであろう。そして看護学部も医、薬学部と同じく6年制になる日は近いと思われる。そこには確固とした物心両面での“専門技能”が要求されている。従って近代化の為に戴帽式自体が廃止、または帽子着用は現場一任となっている。

さて私も今までに何回か病院で手術を受け、入院した経験がある。その何れの時も心に残る手厚い看護を受けた。患者に寄り添い細かい所まで親身になってお世話になった。手術し入院した当夜などは何回となく懐中電灯

を点けて異常はないか容体を確認に来られた。だから一番身近な窓口で看護師さんは頼もしかった。

話によると看護学校または看護大学に入れば看護学の一般教育が済んで病院での実務教育の初期化が戴帽式であった。この神聖な儀式を経て看護学の専門教育が施されて国家試験となり一人前の看護師誕生である。

そんな中で我が国は年金、医療と福祉は避けて通れない。そこで看護師の職域は大幅に拡大された。昨今では看護師あがりの衆、参画議員の外、大臣にも就任されておられる。そして直近の目標は、看護師外来を設け初期医療の診断と処方看護師に任せろと言う。場合によっては出生証明から死亡診断までも視野に入っているとか。そのエネルギーは大きなマグマになっているという。まずは其の理念と迫力に敬意を払いたい。

なお戴帽式を初めて行なったのは大正5年聖路加病院の高等看護学院と言われている。その源流はナイチンゲールの書簡にあるそうだが、英王室ではこの奉仕の精神を尊重し全王女には看護師資格取得を推奨している。即ち

- ① 患者に付き添い奉仕と信頼に堪えること
- ② 時間を厳守、冷静にして秩序を守ること
- ③ 清潔にして清楚にしておくこと
- ④ 忍耐強く、朗らかに親切にすることなど等

そして現在では患者様を中心としたチーム医療に変容したので看護教育も様変わりしている筈である。要は専門職として医療に生き生きと誇りを持って働ける環境が整備されたと言えよう。『天使とは美しい花を撒き散ら

す者ではなく、苦悩する者に寄り添い戦う者です。』と言うアフォードダンスに深い感銘を覚える者である。

私はネットでココヤクを毎日のように拝読している。此の中でとても気になるのは薬剤師の意識調査で自分の子供を将来薬剤師にしたいかという設問に約半数の方が6年間も勉強するなら……と、逡巡すると言う書き込みを見ました。この点では医師や政治家は迷わず自分の子や孫に後を継がせたいと切望している筈である。

今では日本薬剤師連盟は薬剤師の地位の向上と職域の拡大を三井厚労大臣や藤井参議院議員に負んぶに抱っこでお願いしています。しかし少数の方にお願いするのは彼らとて荷が重かろう。全体として顔の見える薬剤師になるために如何あるべきか、薬系議員を拡大する等政治問題を含めて先輩薬剤師として大いに反省させられるところである。

一方医師連盟は党や派閥を超えて医師議員は何党にでも万遍なく代表として沢山送り出しておられるのは流石と言うほかない。発言力も説得力も大きい。

権力や職域や地盤に隙間はあります。うっかりすれば瞬間に薬剤師不要論が起り、他に乗っ取られ埋められてしまうかも知れない。こうして今までの諸先輩薬剤師が築かれた医薬分業を水泡に帰してはならない。

薬学生を含めて薬剤師が地位の向上、処遇の改善の為に存在価値を高めるように、夫々の分野で全力で取り組まれる事を願っております。

第25回三朋会報告

帆士 辰雄(昭30)

平成24年10月16日から2泊3日で昨年と同じ長崎市浜平町の梅松鶴で三朋会を開催しました。今年で全員が80歳の大会に入りそれぞれに持病を持ちながらも元気に昨年のメンバー(1人を除く)が揃い、そのうえ病気が快復した山本君も加わり合計15名でにぎやかに開催することができました。しかしながらこの1年で3名(高橋、中尾、吹譚)の物故者が出たことは誠にさみしい限りです。

10月16日は関東、関西、九州からそれぞれ開催時刻の18時30分までに集合しましたが、黒岩君(昭和大学名誉教授)は17年前に起きた地下鉄サリン事件の毒物研究者として、また森田君はその地下鉄に乗っていた被害者としての体験を薬学部で講義をした後参加しました。

10月17日は例年の観光を取りやめ自由行動にしました。ところが、朝起きてカーテンをあけると外は全面霧で真っ白で下界の長崎の町は何も見えず、のちに雨と風が強くなり我々の行動が奪われてしまいました。それでも各自予定していた縁故者、知人などを訪ねて出かけた

り、黒岩君は長崎国際大学薬学部での特別講義があるとのことで悪天候の中ハウステンボスまででかけていきました。予定がない者もそれぞれの卒後50余年にわたる青春期、青年期、壮年期、老年期等の話題を語り合い有意義な時を過ごしました。

10月18日は予定では稲佐山にロープウェイで上り梅松鶴の反対側からの景色を見ようとの計画でしたが、台風の余波でロープウェイの運航が中止され、予約した帰りの交通機関の時間もあったので断念して、浦上の江山楼で昼食をとり解散しました。今回の三朋会は以上に観光その他の行事はできませんでしたが、年齢、体力、個々の事情に応じてその日の行動ができるように高齢者の同窓会としての今後を考えてみたいと思っています。

参加者：山戸、江口、馬詰、黒岩、小島、宮崎、副島、鍛塚、酒井、帆士、郷野、峯武磨、峯京子、森田和之、山本、以上15名



三朋会 平成 24 年 10 月 16 日 於 梅松鶴

31 年度卒クラス会（平成 22 年 5 月 23、24、25 日開催）

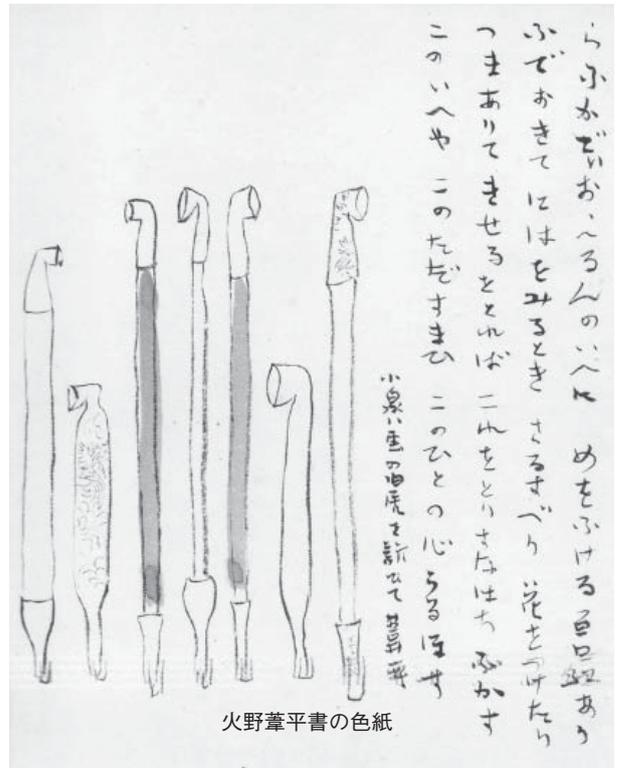
村上 元（昭31）

クラス会の参加写真が手元にないことで、同窓会誌への投稿を控えていたのですが、毎原氏から出雲大社を訪れた時の写真をご提供頂いたので、遅ればせながら平成 22 年開催のクラス会に関する情報を投稿させて頂いた次第、悪しからず。

さて、ものの本によると、高齢者の自立を支える基盤生体機能として三つ挙げているのですが、一つは、食べること。二つ目は、判断すること。三つ目は、移動することだそうです。さて、我々喜寿を過ぎた年代のクラス会の実行・参加の効果は、この三つの生体機能の衰えの進行を少しでも抑え、これを維持することに寄与する所があるのかもしれませんが。

平成 22 年度のクラス会は、出雲市～松江市を中心とした島根と云うことになり高校時代まで松江で過ごした小生が世話役を引き受けさせられた次第。

三十何年振りかで松江を訪れたのですが、余りの近代的観光化により山陰の小京都といわれた頃の面影が薄れていたのは残念至極。時間的制約の関係で、直接訪れることは出来なかったのですが、堀川遊覧船で堀川めぐりの終点近くで小泉八雲記念館と旧居を観た折、父の旧制小倉中学時代の友人である火野葦平氏が我が家を訪れた折、したためてくれた写真にあるような色紙（「らふか



火野葦平書の色紙

でいお・へるんのいへに めをふける百日紅あり ふで
おきて にはをみるとき さるすべり 花をつけたり つ
まありて きせるをとれば これをとり すなはち ふか
す このいへや このただすまひ この人の心うるほ
す」小泉八雲の旧居を訪ひて 葦平)を思い出し、なんと
なく過ぎし日の松江が懐かしく思い出された次第です。

何れにせよ、クラス会に参加された皆さんに今の出
雲、松江の観光を大いに楽しんで戴けたようで、冒頭に
述べた三つの機能の維持に、この会がいくらか役にたっ
たのではないかと期待しています。時は流れ、戻ること
はありません。何時までクラス会を続ける事が出来るか

判りませんが、少しでも永く31年卒クラスの皆さんと一
年に一度は、共有出来る時を過ごせる機会を持てること
を願っています。

参加者：

青木瑞恵、伊藤三千穂、今泉貴世志、岡野幸子、
沖 愛子、桑山晶子、真海延子、立川武資、
辻 良三、中尾道子、中尾保敏、西村ヒサ子、
山口剛志、山本陽子、毎原政利、毎原昭子、
皆川恵美子、宮崎圭介、村上 元、森 健治

(クラス会世話役：青木、岡野、森、村上)



出雲大社参拝の途上

昭和 34 年卒「三葉会」だより

武内 洋子 (昭34)

卒業後暫らくは、何年かに一度の割合で同期会を開催
しておりましたが、平成4年より毎年集まる様になり、い
つしか20回の年輪を重ねて参りました。今年はスリムな会
をとの提案で、長崎在住の松尾さんがお世話下さり、10月
20日(土)出席者、男性7名女性14名計21名が長崎市浜平
「につしょうかん新館」に集まりました。

見晴らしの良い高台で、お部屋の窓より、長崎湾と見事
に復興した町を一望しながら、稲佐の向うに沈む夕日を眺
めて、しばし若き青春時代に想いを馳せました。18時30分
からしっぽく料理を囲んで宴会を始め、最初に早々と次の

世界へ旅立たれた友に黙祷を奉げて冥福を祈り、次いで
一人ずつ近況を披露し合いました。今も勉学や研究に情
熱を傾けておられる方、現役で頑張っている人、サークル
活動に力を入れておられる方、多数の趣味で充実した生
活を楽しんでいる人、お孫さん達のお世話に愛情を注い
でおられる人、得意なお料理を家族や周囲に振る舞い楽
しく過ごしておられる人、など等此れまでに時間をかけて
築いて来られた美しい姿を心温まる爽やかな思いで拝見
しました。後半はカラオケに、フラダンスにと余興で盛り
上がり、最後に全員で「もみじ」を合唱してお開きにしま

したが、その後例年通り一部屋に集まって日付が変わる頃まで語り合い、各部屋に落ち着いてからも又お喋りに花が咲きました。

限りある命（肉体）と永遠の命（スピリチュアルな魂）を、どう繋げて行くか考えてみるこの頃ですが「終わり良ければすべて好し！」の言葉があります様に、高齢化社会で何かをして貰うことを望むより、微力ながら人のために何かをさせて頂くことに喜びを感じつつ、人生の花道を演

じ切ることが出来ればと思います。

次の朝は龍馬伝の舞台となった亀山社中跡を観光に出かけるグループと、予定や都合に合わせて帰路に着く者と、それぞれ自由に長崎をあとにしました。幹事を務めて下さった松尾昌代さんに心より感謝致しますと共に、みなさん楽しいひと時を有難うございました。又の再会を願い、皆々様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

合掌



平成 24 年 10 月 20 日 於 にっしょうかん新館

「大塚保雄君」を悼む

北島 四郎（昭35）

貴君の訃報に接し、入学式以来の日々が、走馬灯の絵となり後先無関係に乱回転しているのを脳裏に感じています。「小倉から出て来た大塚です」と名乗られて以来、喜怒哀楽の共有の連続でした。お蔭様で今思えば楽しいを超えた学生生活でした。

小学校で野球していたのなら野球部に入ろうと誘われ、シャッターの意味が判るならと日本学生写真連盟の長崎支部の発足に誘われ、オドロオドロした時空にも同行と真に有意義な青春でした。下宿変えの狭間、同宿させてもらった事もありました。この時期に囲碁の好きな下宿の人と徹夜で覚えたのが今では私の日々の楽しみです。小説の出筆中と見せてくれた原稿にはアッと文才に驚かされたものです。最終章は見せてもらっていませんが……。

野球の思い出、なかでも3塁ベース上の難ゴロを逆シングルで取り、一回転しての送球でファーストアウトに

「三塁は任しとき」と、流石は小倉高校野球部出身と感心しました。可憐なモデルさんを探してきたからロケに行こうと決行、その時の作品がカメラ雑誌に入選、と貴君は多志オタでした。

卒後メーカーから北九州の公立病院へ、転勤毎の躍進、最高位へと貴君ならば有りと喜んでいました。定年後は請われての萩市の病院へ、一時的のつもりが「終の家」に決めた由、それも釣り三昧の日々が送れるからの言、今では心に残ります。フィルム時代からデジタル化へのクラス会の記録それぞれがお世話になりました。こうして追悼の文を書いても残念でなりません。あんなに才気活発・俊敏朗快の貴君がとの思いがして、別れは人の世の常とは言え無念の極みです。

どうか安らかにお休み下さい。そして向こうで野球チーム編成の企画お願いします。

合掌



上段の右端が大塚君

昭和 35 年卒（8 回生）クラス会

松尾 一誠（昭35）

今年の8回生クラス会は、関東に梅雨入り宣言があつてすぐの6月8、9日の2日間、鎌倉幕府ゆかりの地古都鎌倉で開催いたしました。

2年前長崎島原雲仙でのクラス会で次回は関東でということになり、そろそろ準備に入ろうとしていた矢先、昨年3月11日に東日本大震災が起こり、連日余震が続く、その上放射能汚染の問題があり関東ではできないのではないかと心配していました。また、今年は仲間全て70歳半ばを過ぎたせいか、連絡を取ってみると体調が思わしくないとか、足の具合が悪いという話が多く聞かえてきましたので、どれくらい出席者がいるか最後の最後までやきもきしてしまいました。でも当日は、男性8名、女性7名計15名も出席していただき幹事としてとても嬉しく思いました。

開催日時：2012年6月8日～9日

会 場：鎌倉わかみや

出席者：男性 北島、木下、桑山、中尾、長谷川、松尾、山本、渡辺

女性 荒川、福田、西山、草野、元永、井上、渡邊

会場は、鎌倉から江ノ電で2つ目の由比ヶ浜にある元国家公務員の保養所であった「鎌倉わかみや」で、「学生時代に戻ろう」をテーマとして開催いたしました。入浴後、全員の記念写真を撮り、物故者石飛君への黙祷から始め、2年ぶりの再会を喜びお互いの健康を確かめ合

いました。その後いよいよ今回のテーマである「学生時代に戻ろう」と云う事で、我々のクラスは卒業アルバムを作成していませんでしたので、各自が持っている学生時代の写真を長崎在住の木下君の元に集めて、彼の技術で編集してもらい、これを上映いたしました。写真1枚ごとに「これは誰だ」「あれは〇〇だ」と確認し合い、その時代に戻ってその時の背景や状況を語り合いました。瞬間に宴の時間は過ぎ、物足りなくて、宴会終了後も全員一室に集まり宴会以上に盛り上がり、夜のふけるのも忘れ語り合いました。

翌日はあいにくの小雨模様でしたが、まず江ノ電で「由比ヶ浜」から「長谷」に出て高徳院をおとずれ有名



な鎌倉大仏を拝顔し、之の大きさと威厳に感動した後、長谷観音で有名な長谷寺をおとずれ観音様をお参りし、この季節の花“あじさい”が満開で広い庭園を散策し、心行くまで堪能いたしました。次にまた江ノ電で「長谷」から「鎌倉」に戻り、駅前から賑やかな小町通りをゆるりと散策し、鎌倉のシンボルである鶴岡八幡宮を参拝しました。この日偶然にも結婚式が行われていて、三々九度をながめながら幸せの一部をいただいた気分になりました。これで鎌倉散策を終わり、八幡宮前の「手打ちそば一茶庵」にて昼食を取りながら2日間の出来事や思い出を話し、次回の再会を楽しみにしながら午後2時頃鎌倉駅で散会しました。

今回の鎌倉でのクラス会は、足が悪い人やひざに問題がある人等がいて、全コースを歩けないかもしれないと云った仲間もいましたが一人の落伍者もなく全員無事に歩きました。本当に立派なものでした。我々クラス会も高齢になり毎回これが最後と思われながらも、出席者全員から次もやろうと云うことになり、桑山君が手を上げてくれましたので、3年後長崎で開くことになりました。また、3年後の楽しみが出来ましたので、全員出席できますように、充分健康に気を付けて再会いたしましょう。

なお、今回出席の女性群6名は、1日ではもったいないとの事で、日光に行くことになりみな元気ハツラツと出かけて行きました。



平成 24 年 6 月 8 日 於 鎌倉わかみや

36年バツテン会 in 奈良

越中 利治 (昭36)

映画「夏の祈り」を観た。長崎原爆被災者が入居する施設のドキュメンタリーである。映画入場時、高木俊朗著「焼身」（長崎の原爆、純女学徒隊の殉難）をもらった。この本は、長崎医大の永井 隆先生ら医療団が大量の放射線を浴び、更に怪我をした体で献身的な医療活動をする事が書かれており、またこの原爆によりたくさんの長崎大学医学生・薬学生と学徒隊が亡くなったことも書かれていた。純心女学校に原爆慰霊碑があることも記されており、帰崎の折一度訪ねてみようこれが何処にあるのか調べたところ、現在の長崎大学のキャンパスを通り抜けるのがよいとの事で、電車で長崎大学前で下車し正門から入る。昭和32年入学当時木造、モルタルの校舎が並び建物も少なくただびろい所だったのを思い

出す。教養の授業が終了し、午後からの厳しい実習のため、我々は雑草の生い茂る道を獣の道ならぬ薬学生の踏みつけた道をとぼとぼと歩いたものである。ばらばらと建つ校舎を過ぎると三菱の船型試験場に到達する。そのグラウンドの向こうに、まだ戦時中の迷彩色の残った我が薬学部の建物がみえるのである。現在は正門を入るとすぐ立派な教室がびっしりと並んでいる。奥の方へ進むと工学部、水産学部、その奥に薬学部、しかも隣には下村 脩博士記念館が燦然と輝き建っているのである。

昭和32年入学の我々はドイツ語は厳しい小沢先生、もう一人は若い東北大出の先生だった。この先生は副読本としてハンス、カロッサ（ドイツの作家、医者）の「ドクトル、ビュルゲルの運命」を使った。1900年の初め不治

の病と言われていた結核の治療に悩み苦悩する医師の日記である。将来医療に関係する仕事に携わる我々に患者のために何をなすべきかを教えてくれたのであろう。専門部では鷹取先生、小林五郎先生など高名な方がおられノーベル賞の若き下村先生にもご指導を受けたのであるが、にもかかわらず我が36年卒は一人の学者も研究者も輩出しなかったのである。良い指導者のもとで何を勉強したのやら青春を謳歌し過ぎたのか75歳にならんとする現在にいたっても悔やんでも悔やみきれないのである。

さて2012年10月の同窓会のことである。この年になって人恋しくなるのかこのところ毎年の開催である。2011年長崎くんち、2010年大分、2009年唐津と参加人数は増えることはあっても全く減っていない。今回は三途の川の渡し賃はもう残す必要はなかりと、元気なうちにお金は使おうとの発想で奈良にて開催。名門奈良ホテル宿泊である。初日（10月18日）の観光は平城京である。熱心な案内ボランティアの説明にいささか辟易しつつの雨中行軍であった。雨は降る降るズボン濡れる、足はぬかるみ傘も用を足さず、上半身までずぶ濡れで疲れきって帰って来たが、奈良ホテルの重厚さ素晴らしさに思わず疲れが吹き飛んでしまう。翌日（19日）は一転して秋晴れの行楽日和になり、東大寺、法隆寺で仏像を堪能する。法隆寺では昔教科書で見た玉虫厨子、百済観音像など仏像の数々、そして中宮寺ではこれを観ずして法隆寺を語るなかれと言われる世界三大微笑の菩薩半跏像、その美しさ優しさに心打たれる。最後は薬師寺、薬師三尊像である。今回の幹事が薬学部出身者なら必見すべきものとして最重要仏像として選んでくれた逸品である。これが人の命を預かる者の顔なのか優しいつくしみ深いお顔である。果たして我々はこれほどまでの心になって悩み苦しむ患者に接したのだろうかとまたしても反省である。かくして75歳になろうとする我々の修学旅行が終了した。

後期高齢者の資格がもう目の前にきている我々がこれ



平成 24 年 10 月 19 日 於 法隆寺

から出来る社会への貢献を考えると、わが国の国難である少子化問題の解決にはいささか手遅れの感があるが、もう一つの国難である財政赤字の軽減のため、病気をせず医療費を使わないという方法での貢献があるのではないかと再会を約束したのである。関西地区の幹事さん本当にお世話になりました。今回も楽しい思い出を作ることができました。有難うございました。

追記

今回の手記について、長崎の武田成子さんから「今度は越中さんお願いね。」と半強制的な指示があったわけだが、前回名文を書いた味田和子さんに「今回は開催地の幹事をお願いするのが筋だろう、お願いしますよ。」とずうずうしくもお願いしてみたが、あの美しい顔で一蹴されてしまったのである。それにしても武田さんの長崎カステラの土産と「越中さんお願いね。」の優しい言葉に初めの決心と裏腹に、思わず引き受けてしまった自分のふがいなさに、我ながらどうしようもない意志薄弱さを感じるのである。



平成 24 年 10 月 18 日 於 奈良ホテル

「卒後半世紀の雑感」

檜崎 妙子 (昭36)

今年は長崎大学薬学部を卒業して51年目、そして結婚して50年目、家業の薬局に就いてからこれまた50年目。来年は長女が50歳になり、私は後期高齢者の仲間入りをする年になりました。卒後半世紀の歳月が過ぎたのに、あの頃のことがついこの前のように懐かしく思い出され、皆さんにお会いできるのを楽しみに機会あるごとに同期同窓会にはつとめて出席していましたが、今回は残念ながら未だ現役のため時間が作れず、大変歯がゆい思いをしています。

卒業当時、世の中は高度経済成長の始まりで、それまでとは違う情勢変化と発展が見え始めた頃でした。あれから50年間、私たちがとりまく社会環境も大きく変わり、その変化のスピードも早く、その変化に順応しながらも細々と精一杯生きてこれたこの半世紀、私なりに満足しております。

医薬分業の発展により、わが家も従来型の薬局で保健調剤を始めてきましたが、その忙しさと神経消耗で時の経つのも、自分が老けるのも忘れかけておりました。一方わが家の殿方（主人）ときたら3代目の後継ぎ薬剤師でありながら、私が嫁に来たばかりに自分の好きな公務の道にはいり長年県庁勤めをしておりました。定年が近まる頃、やっと家業にはまり込むと思いきや、今度は地元町の助役に赴き、県議の道へと彼の熱意に絆され、いつしか私も“筆頭理解者”として彼の秘書役や運転手を兼務するようになりました。本業の薬局には次世代の後継者（長女）が決まるまで、私が生涯現役でつとめなければならないのかなと、老骨に鞭打ちながら今も自己研鑽にもつとめております。

少子高齢化が進み、特に高齢社会の到来に向けた「地域社会づくり大綱」も打ち出された今日、薬剤師職能にも幅広い高度な技能が求められており、地域薬局としての役割もますます増大していくものと思います。年齢は老いてもそれに応える薬剤師であらねばと……以上が彼のコトバも参考にしながらカッコウつけてまとめた雑感であります。これから余白をいただいて、ごくプライベートの雑感を付記します。

私は35年前の昭和53年、彼が県庁の長期研修で6か月家を留守にした時、夜間自動車学校に通い自動車の免許を取りました。今ではこの資格が薬剤師の免許と共に一番役に立っております。趣味の集いや各種会合、選挙運

動から家事諸々と、その利便性はすこぶる高く、事故さえなければ、こんなに有難いものはないと、今でも軽自動車を乗り回しております。

週の大半は趣味のリズムダンス、コーラス、フラダンスで、あとの日は各種会合とスケジュールはいっぱい。出掛ける時間が夕方から夜間になるので、彼からいつも口厳しく、時にはうるさく、小言が多かったけど、私にとっては健康づくり生きがいづくり、そして唯一の楽しみなのにと、いつも彼を宥めすかして出掛けた毎日でした。

昨年4月、彼は公言通り3期12年の議員職を退き家業の薬局に就いてくれました。しかし中々なじめず自室にこもりがち。それどころか私のお出掛けにも“クルマに気をつけて”と笑顔で送り出すこの様相。このまま好々爺となって老け込んでいくのでは……と、やはり生涯現役がいいのかなと思ったりしています。

先般、地元西日本新聞社から金婚表彰を頂き改めて結婚50年目の節目を喜びました。金婚は50年目の大きな通過点、先にはダイヤモンド婚、プラチナ婚それを夢見ながら「夫婦共白髪」「夫婦共薬剤師」「夫婦共現役」で生きていたいと思う今日この頃であります。今年もあと2か月余り、仕上げのメにはやっぱり8回目の挑戦で、さが県民「第九」（12月9日）の公演で合唱に参加出場することにしております。来年もまたいい年でありますように。



(西日本新聞 2012年10月7日掲載)

卒業 50 周年記念同期会

吉田 研次 (昭37)

私たち同級生は、昭和37年に卒業して今年50年の節目の年になり、その記念同期会を雲仙で5月21、22日（1泊2日）に開催することになり、長崎在住者がお世話することになりました。

この50年の間、人それぞれ「山あり谷あり」の人生を送ってきたとっております。私自身は卒業して50年経ったとは実感がわいてこなく、光陰矢の如しと言われているように時が過ぎるのは早いものです。

昭和49年に最初の同期会を長崎（茂木：料亭二見）で開催してから今回の記念同期会は17回目になる。出席者は16人で男性10人、女性6人であった。

5月21日午後1時30分に諫早駅の裏のロータリーに集合し（土井さんと早崎さんは雲仙で合流）、富貴屋のマイクロバスで雲仙へ小雨の降る中を出発した。この日は、日本の広い範囲で金環食（長崎県は部分日食）が見られる日だったが、諫早は朝から小雨で残念ながら日食は見られなかった。



諫早駅を出発して間もなく同級生の本田 功さんの母校、県立諫早高校の正門にノーベル化学賞を受賞された下村 脩先生の銅像を見学した。その後、諫早干拓の里の側にある旧小野島校舎跡の石碑に立寄った。石碑の建立について伊藤好古先生（昭22）が同窓会報第28号に「小野島校舎跡記念碑建立」と題して詳しく掲載されている。小野島校舎は、第二次世界大戦中に海上航空隊の乗員訓練飛行場跡の兵舎を長崎医科大附属薬学専門部が、戦後昭和22～26年まで仮校舎として使用しており、下村 脩先生もこの校舎に通われたと聞いている。記念碑は、毎年11月に同窓会役員事務局の計らいで有志による清掃が行われております。

同期会に出席した大部分の方々は、「こんな場所で先輩の方々は、苦難の学生時代を過ごされた事」をはじめで認識されたと思っております。

現在は、訓練飛行場跡は運動公園や遊園地の施設があり市民の憩いの場所となっています。バスは、小野島から愛野町にかけて道の両側に麦の穂が道の両側に黄金色の

絨毯を敷き詰めたような諫早平野を走り、小浜温泉経由で雲仙に向った。



バスが仁田峠に着くと満開のミヤマキリシマが目に飛び込んできた。仁田峠周辺は薄紅色に山を覆うように咲き誇り、それは見事な風景に感嘆の声があがった。雨に洗われたミヤマキリシマの小さな花が更に艶やかさを増し、仁田峠展望所までの坂道を寒さを忘れて花を背景に写真を撮りながら散策した。このまま帰るのは惜しいと来た坂道を引き返される人達がみられた。「梅に鶯」ではなく「ツツジに鶯」、鶯がツツジの中のあちこちで澄んだ声で絶え間なく鳴いたのが、更に趣を添えた。妙見岳のロープウェイは強風のため、運転中止となり、残念ながら妙見岳からの眺望は出来なかった。

富貴屋旅館に到着すると男性は、長時間の移動の疲れと冷えた身体を温泉に浸かって癒した。女性の方々は、温泉に入る時間を忘れて久しぶりの再開で積もる話に夢中になっていたと後で聞いた。

宴会が始まる前に集合写真を撮り、宴会は林さんの乾杯の発声で始った。50年前の学生時代の記憶を更に明確にするため卒業アルバムが回覧された。各実験室で教授を囲んだ集合写真、実験風景、クラブ活動、スナップ写真などを見ながらお互い学生時代のことを思い出したり、こんなに若い時代があったのかなど、時間が経つのも忘れる程夢中になって和やかに過ごした（私もスナップ写真を見て髪の毛がこんなに黒くふさふさしていたが、今はその面影は全く無く、それだけ年輪を重ねてきた証だと思った）。宴会は、卒50周年を一区切りとして出席の皆さんの今後の健康を願って、小野さんの一本締めで終わった。

二次会は、当旅館のカラオケ室を貸切り、全てセルフサービスで行った。渡久地さんは、馴れた手つきでウイスキーの水割りや焼酎の湯割りを作り各人にサービスされ、早崎さんは、カラオケの予約係りになられた。最初は、「長崎は今日も雨だった」や「長崎のザボン売り」など長崎に関係の曲名が多く選ばれた。暫らくすると各自の得意

な持ち歌が多くなり次から次と上手な歌が流れ、賑やかな時間が過ぎた。最後に長崎薬専歌集のCDから「薬学部校歌」を伴奏に合わせて皆で歌って二次会は散会となった。男性は、未だ歌い足りなかったのか居残ってカラオケに夜が更けるまで興じた。

翌日は、天気は一転して雲一つない五月晴れとなり絶好の観光日和となった。小野さんと林さんは仕事の関係で旅館の玄関で別れ、他は島原観光に出発した。1週間前にジオパーク国際ユネスコ会議が盛大に開催され、その主会場になった島原復興アリーナ近くの雲仙岳災害記念館へ向った。館内は中学生の修学旅行生であふれており、迫力の火砕流、土石流をモニターや大型スクリーンで見て改めて自然の猛威を再確認した。その後、土石流の跡、平成新山の溶岩ドームが間近に見える眉山ロードを經由して壮麗な面影を残す島原城へ移動した。北村西望先生の彫塑像を見ながら天守閣の周りを散策した。

島原から諫早に向う途中、諫早干拓地の水門を開ける

開けないで争議になっている雲仙市吾妻町から北高湯江町まで約7kmの直線の諫早干拓道路を通ることにした。干拓道路は、1997年4月に一瞬にして鉄板のようなもので諫早湾が堰き止められた堤防に作られ道路である。堤防の上から有明海と遠くに熊本の金峰山、近くに多良岳が望められ、堤防の下には約20羽程の白鷺、青鷺が一行に等間隔に並んで魚が近寄ってくるのをじっと狙っている姿が見られた。

昼食は、諫早の本明川沿いにある「うなぎ料理屋」で食事し、食事後1泊2日の卒業50周年の同期会は散会となった。来年は、熊本で再会を約束した。

最後に山口富美子さんの俳句2句を提示「初に見る母校跡の碑草茂る」「青鷺や水門隔つ海と池」。

出席者：有村浩子、岩永直子、小野 仁、尾崎晴美、土井雅子、平 季久、高井啓二、寺尾桂子、渡久地泰明、野村 修、馬場純好、林 徳隆、早崎忠信、福島祐作、山口富美子、吉田研次



平成 24 年 5 月 21 日 於 雲仙富貴屋

昭和 38 年卒同窓会の報告

土田 拓生 (昭38)

2012年10月29日(月)卒後49年京都に集まったのは16名(女性9名、男性7名)、従来に比べ幾分少ない感じである。ウィークデー開催としたが、70才を越してなお仕事に精を出している人たちに配慮を欠いたことが参加者が少ない原因だったかも知れない。2年ぶりの同窓会に中野幹事長が選

んだのは、全国どこからでも集まるのに好立地のJR京都駅から100m、ホテル瑞宝閣である。

初日(29日)はいつも通り夕方4時に集合し、ワイワイガヤガヤの後大広間でコの字に座って宴会が始まり、一段落したところで一人ずつ近況報告を披露した。各人の話しぶ

りは昔の学生時代とそれほど変わらないのが懐かしいが、社会に出て受けた多く経験からにじみ出る味わいもまた面白い。大半の仲間は既に仕事から離れているが、それぞれに趣味、家庭、社会活動、健康管理等に意欲的に前向きに取り組んで意気盛んである。

皆の話聞きながら、これは全くの妄想であるが、今回参加できなかった人を含めて全員があつた昭和町の校舎の隣の教室で先生方から受けている講義の情景が思い浮かんでくる。この時のみんなの表情は声は聞こえなくとも何故か明るく大きな笑顔である。こういう一コマが人生のほんの4年間という短期間のことであったにも拘らず大切な絆になって心に深く刻まれているんだなあという思いになる。

2日目(30日)は朝食後に解散し、希望者は2班に分かれて京都観光に出掛けた。10月末の京都はまだ緑があせず紅葉のはしりのためか観光客が押し寄せる前でむしろ我々には好ましい。快晴のなか木々の緑が一部色づき始めてそよ風に揺れる風情は美しい。

2つの班は二条城・金閣寺方面と三十三間堂・六波羅蜜

寺・南禅寺方面であるが、二条城・金閣寺方面の班に同行した。二条城は徳川家の京都での宿泊所として建築されたそうであるが、城というより大邸宅である。柱、床、天井は大木を組み合わせて力強くどっしりと構えており、襖や壁等の側面は狩野派尽くめである。これでは狩野派の画家たちは大忙しで大変だったろうと同情してしまう程である。この場所に立ち、ここで大政奉還が行われ歴史が動いたと思うと感慨深い。金閣寺はやっぱり日本の代表格なのであろうか。外国人の比率の多いこと。波もなく静かな池の水面に映える金閣を背景にカメラの行列であるが、我々がカメラを向けている時に横の方から小学生の集まりが割り込んできた。少し譲ったところ、写し終えた小学生2名が傍に来て「すみませんでした」と頭を下げたではないか。うれしかった。

長年関西に住みながら京都を訪れたのは何回あるだろうか。もっと機会を作って来てみる価値のある、気持ちの落ち着きが得られる所だなあと再認識している。

さて、次回と同窓会にも多くのメンバーが参加することを期待しよう。幹事さんご苦労様。よろしく。



北見紀子



小隈紘子



久保多都子



山本信義



岡 邦彦



左利龍彦



青木 郁



高橋万里子



小波蔵千恵子



中野英和



城 タミ子



松本悦子



篠原利恵子



井川敦子



小倉敏弘



土田拓生

2012.10.29, 京都 ハトヤ 瑞鳳閣

長崎大学薬学部昭和41年卒クラス会報告

宮本 眞秀 (昭41)

古希について辞書を紐解くと、「人生古来稀」と唐の詩人杜甫が1300年ほど昔に詠んでいます。また、世界文化社の「日本史1000人」に登場される方々で、寿命70歳以上の割合は凡そ1割です。ところで、現代に生きるわれわれ41年卒43名はどうでしょうか？振り返れば、昭和37年に沖縄からの2名を含み46名が机を並べ、文教キャンパスの木造校舎での教養課程を終え、昭和町の薬学部へ進級(退学1名、留年1名)、さらに3年次で1名留年されたため、43名が昭和41年3月母校を巣立ち、今に至るまでに黄泉国人となられた学友が3名、消息不明が3名となりましたが、9割強の学友が古希を迎えられております。人生50年と謡い舞って

消えた信長公の時代は如何に？と慮りました。

さて、話を本題に戻し古来不希な現代のおジジ7名(伊豫屋偉夫、小野博正、小松芳文、早崎義信、藤澤淳一、松本功治、宮本)、おババ4名(荒木美智子、太田和子、福川淳子、森岡怜子)は、同窓会翌日の6月3日、筑後川温泉「桑之屋」差し回しのマイクロバスに乗り込み、ホテル白菊をあとに、一路ユネスコ世界記憶遺産に登録された「山本作兵衛」の作品を展示している田川市石炭歴史博物館へと出発しました。この間ジジババは食べたり飲んだりしゃべったりと実に元気でした。博物館では、往時の炭鉱の様子が一目でわかる絵や、鋭くかつ軽妙な添え書きに皆さん釘付

け、感嘆仕切りでした。昼食後、かつて日本3大修験場として知られる霊峰英彦山の中腹にある英彦山神宮へと向かいました。6月の梅雨の候にも拘らず、真夏のような炎天下でしたが、ケーブルカーのお蔭で暑さ知らずで山腹の神社へ到着、無事参詣を済ませ、しばしの神聖さと涼しさを授けられ、下山。小石原焼を愛で、森山銘木展示所で木彫の素晴らしさに見惚れ、匠の技を堪能した後、本日のお宿である筑後川温泉「桑之屋」へ到着。早速、露天風呂へザブーン、熱湯に胸までつかり川の流れにしばし目をやり、今日の疲れを癒しました。

夜の宴は、伊豫屋君の同窓会長職6年のご苦労さん会を兼ね、所用で帰宅した松本君を除く10名で盛大に飲み、食い、歌いのさなか、対馬出身の仲居さんの指導により全員「炭坑節」を踊り始め、早崎君の尺八伴奏もあり、50年前の学生時代に戻ったような大賑わいの中で夜も更けていきました。

翌朝（6月4日）、宿の玄関前で昨夜の仲居さんと共に記念撮影しバスの中へ、天領日田の豆田町散策後サッポロビール工場を見学し、隣設の森のビール園で昼食後再びバスの人となり、佐賀市へと向かった。新鳥栖駅で、3.11大震災の折、死ぬかと思うほどの大揺れを体験された栃木県宇都宮市の小野君、一家言持ちの福岡市の藤澤君、ハーモニカ伴奏で車中を盛り上げて頂いた広島市の森岡さんの3名が名残を惜しみながら降車。再開を願って、Auf wiedersehen!!

バスは小川武子さんが待つ佐賀城跡へ。佐賀城本丸記念館へ入館し殿様気分を味わいつつ、展示品を観賞していると、長崎港防塁図が目にとまり「ねずみ鳥」と記された鳥を見つけた。小学生の頃大波止から専用船で通った海水浴場が走馬灯の如く蘇り、ボランティアの案内役さんと「佐賀藩と長崎のかかわり」について話に花が咲き、長崎・佐賀は仲良く助け合いましょうなんて話にまで発展しました。貴重な時が持てたのは小川さんのお蔭と感謝申し上げます。



バスは、夕闇迫る長崎街道をひたすら長崎へと走り続け・・・紀行報告を了とします。

田川炭坑節

香春岳から 見下ろせば
伊田の豎坑が 真正面
十二時下がりのサマちゃんが
ケージにもたれて思案顔
サノヨイヨイ

月が出た出た 月が出た
三井炭坑の 上に出た
あんまり煙突が高いので
さぞやお月さん煙たかる
サノヨイヨイ

一山二山三山越え
奥に咲いてる 八重つつじ
なんぼ色よく咲いたとて
サマちゃんが通わにや仇の花
サノヨイヨイ

格子窓から月がさす
サマちゃんの寝顔の愛らしさ
はずした枕をすけさしょか
思案なかばに明けの鐘
サノヨイヨイ

なお、日田市を襲った豪雨では「桑之屋」は無事だったそうです。

また、文中敬称を省略しましたので悪しからずご了承下さい。



平成 24 年 6 月 4 日 於 桑之屋（筑後川温泉）

昭和 42 年卒業 クラス会だより

井上 一顕 (昭42)

日時：平成24年10月20日 (土曜日) 午後6時30分より

場所：大阪駅前 ハービスプラザ

大阪在住の梶野君に幹事をしていただき、2年ぶりに大阪で開催しました。出席者は、名簿順(旧姓)に井上、奥村、神田、梶野、梶原、神代、高松、中島、西岡、丹羽、樋口、松永、吉岡の13人でした。

受付には、卒業以来初めてお会いする遠藤さんと、広島での同窓会以来4年ぶりの吉岡さんがおられ、お互いに昔の面影を探しながら挨拶をしていると、次々に皆さんが集まって来られた。梶原(高宮)さんは、お嬢さんとお孫さんを連れてこられた。ご主人の高宮君が亡くなった時、まだ小学生だったお嬢さんがこんなに立派に成長されていたのを見たとき、胸の奥から熱いものが出てくるのを感じ、とても嬉しく思った。次にまた感動する人が登場してきた。高松君だ。10年ほど前、脳梗塞に倒れ寝たきりの状態から、ここに来るまでに回復されたそうだ。足と手に少しの障害が残ってはいたが、頭脳は明晰で言葉もはっきりしており、本人曰く「倒れる前よりも、頭が良くなった気がする。」と言っておられた。

会が始まると、みんな昔に戻り学生の時と同じように会話が始まった。出席された皆さんが一人一人現状報告をされたが、それらを簡単に紹介すると、奥村君は今でもいくつかの大学で講義をされ、外国の学会にも出かけられておられるようだ。神田君は少し仕事しておられるようだが、大半を趣味(ゴルフ、釣り、陶芸など)に費やされているとのこと。梶野くんは、仕事を辞めて、今は奥様と日本中を旅行されているそうだ。梶原さんは、故郷の山口の調剤薬局で仕事をされておられるそうだが、そこでは100歳のお母さまと2人で生活され、お母さま孝行をされておられるようだ。神代くんは、今回、高松くんを山口からここまで連れてきてくれた。彼は、調剤薬局を数件開業されており、広

島大学での講義の他に、海外展開する事業も始められているようだ。高松君は、不自由な体で、「萩ものしり修士」の称号を取得され活躍されているそうだ。彼は、昔のことだけでなく今のことでも私達以上によく記憶しており、出席者の全員が舌を巻いたほどだった。中島さんは、今では仕事を辞めて、京都の丹波町で一人で暮らしておられるようだ。西岡さんは、大阪で調剤ではなく薬局をやって頑張っておられるそうだ。丹羽君は、退職後、中津の郊外で仕事をされておられるとのこと。お土産に持ってきてもらった大分名物のどら焼きを美味しくいただいた。樋口君は著作業をやっておられ、昨年2作目として出版された「テロメアの報復」を持ってきてくれた。現在は、文芸「草の丘」で「アブとズコ」を連載中。私はとても面白いと思います。皆さんもインターネット上で見れますので是非読んでみてほしいと思っています。松永君は、ニチバンに就職されておられたが、退職後は大阪の羽曳野市で長崎出身の奥様と生活されているようです。吉岡さんは、町田市で生活され、週に1~2度のアルバイトをされておられるとのことであった。息子さんのお嫁さんがカナダ人なので先日カナダに行かれたとのこと。最後に、井上ですが長崎市で、仕事とゴルフ、チェロなどの趣味に追われ毎日忙しく動き回っております。3時間のクラス会であったが、時間を忘れて楽しく過ごすことができました。

私たち昭和42年卒業は40人ですが、もうすでに6人の方が亡くなっており、現在病気で苦しんでおられる方もわかっていただけで2人おられ、消息がまったくわからない方も数人おられます。元気なうちにまた会おうということで、次回からは毎年クラス会をやることになり、来年は山口で開催することになりました。神田君、梶山さん、神代君たちにやっていただけのようです。今回出席出来なかった方は是非、来年出席していただけるようにお願いします。



平成 24 年 10 月 20 日 於 ハービスプラザ (大阪駅前)

44年卒クラス会に参加して

小坂 妙子（昭44）

昭和44年卒のクラス会は、2年に1回各地持ち回りで開催していますが、今年は福岡在住の井石さんに幹事をしていただき、9月15日～17日に開催されました。折りしも、中心気圧900ヘクトパスカルの最強クラスという台風16号が九州に接近中で、その進路によっては同窓会もどうなるものかと台風情報を気にしながら、会場のセントラーザ博多に集合しました。

15日夜のクラス会参加者は、井石、植村、内田、木下、小坂、下野、高橋、藤堂、富永、中村、西村、原、広本、藤田、松本、松村、護山、渡部（セ）の18名。それに有吉俊彦先生をお招きしました。現在、82歳ということでしたが、若々しく大変お元気な様子でした。恒例の近況報告では、退職して趣味や旅行を楽しんだり、ボランティアなど地域貢献で日々過ごされている方、第二の職場で新たな仕事に頑張っておられる方、薬局経営に奮闘中の方、そして家族の介護や看護に心を砕いておられる方、それぞれの暮らしぶりが紹介されました。皆65歳を超えて、仕事中心から“楽しみ”と“家族”そして“健康”にシフトしてきているなど思いながら聞きました。

クラス会2日目は開催地の観光が付いているのが恒例になっていますが、家庭や体調などの都合で見合わせた人もあり、12名の参加となりました。貸切バスで太宰府

天満宮にて参拝し、離れの茶屋で名物のアツアツの梅が枝餅を頂き、九州国立博物館へ。アジアとの文化交流史展示室で古墳の副葬品からアジアの民芸品や仏像を足早に見た後、天満宮より少し歩いた静かな通り奥に佇む立派な門構えの自然庵というところで湯葉とお豆腐などの豪華な昼食。幹事さんが選定に最も気を使ったというだけあって、雰囲気もお料理にも大満足でした。その後、熊本城へ行き、復元された本丸の大広間、数寄屋、大台所などをガイドボランティアの名調子とともに見物した後、歴史を肌で感じられる風格のあるという築400年の宇土櫓へ、そこから眺めた熊本城の広さは圧巻でした。

ニュースで騒がれ、心配していた台風は17日に朝鮮半島から日本海に抜け、大雨にも会わず、楽しく観光できました。今回の幹事の井石さんの心使いに感謝！帰路は飛行機も無事飛び、ホッとしましたが、有明フェリーだけが欠航で、対岸に帰る予定の藤田さんは遠廻りになったそうです。（そう言えば、前回島根で開催したときも雨のため、帰りの電車が山中で4～5時間立ち往生して大変でした。）

次回は、長崎くんちに合わせて、来年10月に開催されることになりました。また、皆が元気で集まれることと久しぶりのおくんちを楽しみにしています。



平成24年9月15日 於 セントラーザ博多

後期高齢者まであとちょっと —でも力尽きるまでは頑張りましょう！—

松本 逸郎 (昭47)

6月2日(土)、3日(日)に24年長薬同窓会定期総会(野尻敏博支部長、於別府市白菊ホテル)に合わせて昭和43年入学47年卒業組のクラス会を野尻さん、大石さんのお骨折りで開催しました。遠くは関東・関西から、九州各地からと20余名が参集しました。総会に出席し長薬懇親会とクラス懇親会に出席する人、クラス懇親会に出席する人、その後の都合で宿泊せず夜行する人など様々でした。それぞれ事情を抱えながらの参加だったと思われる。翌日は別府市内を観光しながら、自身や家族・友人等の近況を報告し合い、久闊を楽しみました。

クラス懇親会

カラオケルームを貸し切ったのクラス懇親会(二次会)では、現在の長大・薬学部の近影(伊藤 潔先生(昭59、元同窓会幹事)のご厚意による提供)と、クラスメイトの近況を自己紹介した。卒業アルバムからのスライド上映では往時の若者に返って懐かしい顔ぶれに再会し、過ぎたよき時代に想いを深くした。一枚の集合写真から松本がポインターでこの人は〇〇、△△、××と3人ほど紹介したところ、最初の数分でポインターを奪われて、後は次々に交替しつつ、全員80余名の一人一人の思い出の話となり、大いに盛り上がりました。卒研の教室ごとの紹介では、恩師や先輩方の懐かしい顔も現れ、「ああ!」とか「きゃー若い!」など歓声が上がリ、一杯飲みながらのカラオケどころではなく、何時果てるとも分からぬ、收拾付かない状況となった。既に鬼籍には入られた方々もおられ、ことさら懐かしい思い出が走馬燈のごとくに駆け巡ったからではないでしょうか。

私ごとであります。私を思い出せなくて(たぶん)、数秒ののち「ああ! あんた松本さんの!(絶句)」とここは絶句してほしくないところでしたが、現状は如何ともし難いと言ったところでしょうか。私も「あの人誰?」と隣の人にこっそり尋ねた方もいました。特別参加の古川先生(昭25)はかつてのダンディなお姿をたくさん残しておられ(失礼!), お話しもクリアーで定年後の充実した生活が、今もお緊張感あふれていることを伺わせました。

久し振り ハローワークで 同窓会
クラス会 担任よりも 老けた奴
年幾つ? 思わず聞いた 同窓会
同窓会 しわしみ うす毛 厚化粧
久し振り 名が出ないまま じゃあまたね~



定期総会懇親会

三次会

部屋に引き上げてからの談話も最高でした。話題は年金(自分の年金がどういう計算になって、どのくらいになるのか分からない人がいて、大石さんが懇切に説明していました。しかし理解できたか不明)のこと、卒研時代のこと(大いに沸いたOさんの告白。卒業実験の報告はB4版一枚であったが、たったの3行で終わり、M助手に相談したところ、「ベンゼン環を3倍大きく記したらスペースの半分くらいは埋まるやろ!」と言うことで教授に提出すると「まあ、君だったらこんなモンだろう。」と言うことで、無事卒業と相成ったことなど)、再々再……試験のこと(Mさんの告白。2年後期の薬品製造化学の試験は毎回同じでステロイドの全化学合成でした。なかなか合格できず、教授に「先生。いい加減にあげて下さい」と厚かましく頼んだところ。「君もいい加減に上がってくれよ!」と言われ、就職先も決まったことゆえ、覚悟を決めてステロイドの全合成をやっとこさ覚え、卒業2か月前に教授室で受験し、あげてもらったこと。外野席から「その名も情けの梁井先生になんちゅう失礼なことを!」とヤジも飛ぶ始末。就職先のメインテーマがストレスによる副腎皮質ホルモンで、今有るのは梁井先生のお蔭と大いに感謝、感謝)、夫君とのなれそめ話(一人娘が親を捨てて、遠く離れた土地の夫君のもとに走った話は「人生はドラマじゃのう!」思わずホロリでした)などなど盛りだくさんの話に夜中の2時過ぎまで沸いたのでした。

翌日の朝食時に希望をとって、大石さんの案内でうちそろい、別府市内の地獄巡りをしました(Yさん夫婦は久住登山に出かけました。前日は由布岳に登ったそうです。定年後は全国でトレッキングを楽しみ、車には何時でも何処でもすぐ登れるように、二人分の装具が常備されているとのこと。HさんとKさんはゴルフに出かけました)。3時間ほどかけて地獄を巡りながら、ゆったり

とした時間を会話と散歩で楽しみました。皆さんそれぞれに「良き齢を重ねているなあ！」といった印象を持ちました。その後、市内の某有名レストランで昼食を取りつつ、次回のクラス会を長崎で開催することに決め（松本はアクシデントに見舞われて参加できず、詳細は不明）、三々五々別れを惜しみつつ散会しました。

格差より 段差が気になる 年となり
ときめきは 四十路過ぎると 不整脈
このおれに 暖かいのは 便座だけ
床屋いく 金・ひまあれど 髪がない
アレどこだ？ アレをこれする あのアレだ！
入歯見て 目ははずしてと せがむ孫

アクシデント

松本が高速の九重-湯布院の間で休憩したところ、エンジンがかからなくなりました。バッテリーかと思ひ、隣に駐車した同年配の方に頼んで直結しても始動せず。JAFには入っていないし、総会は迫るなか、頭は真っ白（内も外もです）。パニックしていると、同人が自分の行きつけの車屋に連絡してくれました。保険会社が了解するなら牽引に行っても良いというので、依頼しました。到着するまでの1時間の長かったこと、野尻さんに連絡を取るやら、約束破りで申し訳なさで落ち着きません。焦りました。ところがレスキューが到着してセルを回すとなんと1発でかかるではありませんか。啞然、呆然。恥じ入るばかりでした。メカさん曰く。「始動スイッチの接触不良か、セルモーターの劣化が考えられる。このままエンジンを切らずに、まっすぐ長崎に帰れ！」“今日はどうしても別府に泊まらんといかんのです”「スイッチは何回か試すとうまく行くことがある。セルなら、思い切り蹴っ飛ばせ！」“はあ！セルはどれですか。なんか

奥の方にひっこんどる。どぎゃんしてけつとばそうかね。まあ何とかなるじゃろ”「もしだめなら別府まで行ってやるけん！始動したら今度はまっすぐに長崎に帰らんですか”“分かった！えろう世話になったね”と言うことで這々の体でやっとかき懇親会には間に合いましたが、総会はパス。野尻さんにはえらく、心配と御迷惑をおかけしました。地獄巡りの途中にもストップして、同乗者にもまたまた迷惑を掛け、地獄に堕ちた心持ちでした。それで最後の昼食会とお別れの挨拶は出来ませんでした。皆様、大石さん、野尻さんに改めてお詫び致します。「ごめんなさい！（小さな声で）」。後日談。配車してくれた湯布院の会社をインターネットで探し連絡を取り、車屋さんを紹介してくれた方の名前と住所を教えてください菓子折を手配し、車を修理屋に出したりで、2-3日はてんやわんやでした。因みに、故障の原因はセルモーターでした。私の車のセルは奥に引っ込んでおり蹴っ飛ばすことは出来ないそうです。

パーキングで困り果てているときに声を掛けてくれた若い男女のグループが2つもあり、この世知辛いきょう日、まだ日本も捨てたものではないなどの印象を強くしました。ともあれ、とてもエキサイティングな土日でした。皆様からの返信では、親の介護で参加できずが多かったですね。一生のうちにはそんなときもあるでしょう。体調が勝れずもありでした。同窓生の皆様、いろんなことにもめげずに頑張りましょう。では来年長崎で再会しましょう！

前向きで 駐車場にも 励まされ
均等法 いよいよ家事も 任されて
物忘れ 増えて良くなる 夫婦仲
俺よりも 長生きしろよ 受取人

全てサラリーマン川柳いちおし傑作選（NHK出版）からの引用です



地獄巡り

前長崎県北支部長 今泉喜世志先輩を偲んで

長崎県北支部長 相川 康博（昭48）

平成24年8月3日午後だと記憶しているのですが、突然に今泉先生（昭31）の訃報が入ってきました。1月に支部長を引き継いだばかりだったのに、あまりにも早い旅立ちでした。

先生との出会いは、私が学生の頃は夏休みのアルバイトとして、自宅まで行って同窓会費を徴収して回っていたのですが、私が佐世保の出身ということで、今泉先生の薬局にお伺いして同窓会費をいただいたのが最初だったと思います。そして、卒業して先生の薬局近くの佐世保市保健所に勤務することになり、折に触れて、同窓の後輩としてよく可愛がっていただきました。それから40年近くになります。

昭和63年、先生は佐世保市薬剤師会の社団法人化と同時に理事になられ、先生と一緒に佐世保の薬剤師の職能向上のためにがんばりました。

同窓会の二次会や薬剤師会の飲み会のときには、いつも先生の行きつけのスナックに連れて行っていただきました。どこへ行っても「きよしちゃん」か「きよっさん」と親しみを込めた名前と呼ばれ、お酒が、特にビールが大好きな先生はとても豪快に飲んでおられました。

先生は、学生時代は薬学部野球部で活躍されていたようですが、ご近所のソフトボールのチームでもプレーされており、薬剤師会のソフトボールチームの一員として一緒にプレーしたこともありました。先生のは、やはり野球のスイングですが、とても綺麗なスイングでショートの上をスッと抜けていくのが先生の球筋でした。先生は、私も野球部の後輩と思い込んでおられていて、「今度の11月の試合には行くことやろー？」と尋ねられて、「何の試合ですか？」と答えると、「長葉の野球部のさー」、「でも、僕は野球部じゃありません」とまた答えると、「野球部じゃなかったとやー、よかさー来んや、その後で飲み会するけん、オイが言うてやるけん、来てよかさー、来んやー」。実に豪快な先生でした。

歳をとられてからは膝を悪くされ、満足に走れなくなってからも、その試合には毎回出掛けてプレーしたとのことでしたが、同窓会誌で見るところでは、打ったら代走が一塁まで走るシステムになっていたそうで、あの足ではと思っていたので納得することができました。また同時に、ずっと試合の度にボールをダースで贈られていたそうで、後輩思いの優しい先生だった一面が、そこでも出ていることを知ることができました。

同窓会支部の支部長をどうするか？大隈先生（昭23）が急逝され、今上先生（昭25）と今泉先生と3人で話合ったときの裏話です。2人は今泉先生だろう、今泉先生は相川だろう、話は平行線で纏まりません。そこで、1期2年だけ今上先生が勤められて、次は今泉先生にと



平成24年1月22日今泉支部長から今上先生へ厚生労働大臣表彰受賞お祝いの記念品贈呈

いうことで決着して、後段部分は無しのまま、総会で今上先生が支部長に就任されました。そして、その1期が終了する前、再び3人で集まったの話し合い。密約がある以上、次はすんなり決まるはずではあったのですが、駄々をこねる、これもまた今泉先生の一面でもありました。しかしこの場合は、密約のとおりで行くことになりました。

そして、無事今上先生から今泉先生へ引き継がれたのですが、その頃から体調が思わしく無かったようです。1期の半分、平成24年1月の支部同窓会会場に入られた時の姿は、元気だった頃の先生の印象しかない私にとっては、実に痛々しいお姿でした。突然の支部長移譲も断ることはできませんでした。本当なら、しばらくは続けていて欲しかったです。

通夜の会場で、もう一つ納得したことがありました。先生が根っからの阪神タイガースのファンだったことを。そういえば、時々「六甲おろし」を聞いたことや、グッズを見たりしたこと、ユニフォームの着こなしが、ずーっと昔のタイガースのユニフォームを彷彿とさせることなど。棺の中にもタイガースのユニフォームが納められていました。

人情味に溢れ、面倒見がよく、そして豪快に生きられた今泉先生、大変お世話になりました。そして、ご苦労様でした。これからも、天国から見守ってくださいますように。
合掌

薬品合成化学教室同門会 in 福岡，まだ燃える思いがある

— 古川淳先生ご夫妻・木下敏夫先生を囲んで —

板倉 忠則 (昭49)

平成24年9月30日、小寺 信先輩 (昭47) のご尽力で福岡市の博多都ホテルで古川先生 (昭25) ご夫妻、木下敏夫先生 (昭35) を囲んでの薬品合成化学教室同門会 (以下同門会と略す) が開催された。参加人数は47名であり盛況だった。中川博史君 (昭50) と私が幹事をして、島根県松江市美保関町での「蟹を食べながら、古川先生ご夫妻と飲もう」以来、6年ぶりであった。

午前11時からの受付は、濱田哲也・平田敏男両君 (昭54) にお願した。一番初めに来られたのは小林義知先輩 (昭47) だった。それから懐かしい仲間達が続々集まった。私知っている人、知らない人、それでも同門会だから飲んで話せば打ち解けると思う。

記念写真撮影後、私の司会で懇親会が始まった。故渡辺三明先生 (昭42)、小寺法子先輩 (昭48) への黙とう、同門会代表の篠原亮太先輩 (昭46) の挨拶、古川先生のお話、そして新平孝一郎先輩 (院昭47) の乾杯のご発声で宴が始まった。所用のため、同門会に参加できなかった上島泰二君 (昭56) からご祝儀を頂いた。心からお礼申し上げる。

古川先生ご夫妻の笑顔、木下先生の笑い声、学生時代と同じく新平先輩からの焼酎の差し入れ、他愛の無い世間話、卒業年度別の自己紹介等、会は歓声とともに進行した。学生時代の教室の飲み会と同じだったと感じたのは私だけだったのか、いや違うと想う。初めて会った後輩達、沢山の刺激を受けた。やっぱり同門会を企画して良かったと思う。奥様、木下先生への花束贈呈、そして森本 仁君 (平5) の一本締めで一次会はお開きとなった。

二次会は30名以上の参加で始まった。詳細は覚えていないが楽しかったとの記憶がある。そして三々五々に博多の街へ。

久しぶりの同門会、私が故渡辺先生の墓参りに行くことになった。兄とも慕う渡辺先生の墓前で、同門の皆様のお気持ちを伝えることができるか全く自信は無い。しかし責務は果たしたいと考える。

最後に2年後の長崎での同門会、また会えることを信じている。そして長崎ではもっと多数の参加を祈っている。長崎在住の次回幹事の諸君、準備方宜しく願いたい。そんな思いを抱きながら博多を後にした。

参加者名 (敬称略) : 総勢47名

古川 淳先生 (昭25) ご夫妻 木下敏夫先生 (昭35)
特別参加

小松芳文 (昭41) 増井重久 (昭41) 板倉明美 (昭53)
同 門 会

新平孝一郎 (院昭47)	篠原亮太 (昭46)	小寺 信 (昭47)
小林義知 (昭47)	橋本和幸 (昭47)	森 賢造 (昭47)
蓑原導人 (院昭49)	板倉忠則 (昭49)	馬場満輝 (昭49)
増田和久 (昭50)	黒田正幸 (昭50)	中川博史 (昭50)
宮崎賢三 (昭50)	青野 真 (昭51)	北村良二 (昭52)
松野康二 (昭52)	安河内一弘 (昭52)	太田佳子 (昭54)
大本房子 (昭54)	滝野直子 (昭54)	濱田哲也 (昭54)
平田敏男 (昭54)	真田清子 (昭54)	村野弘和 (昭54)
久保正樹 (昭56)	中島敏樹 (昭57)	仁田祐子 (昭59)
山崎祥子 (昭59)	原口桂子 (昭59)	浅沼章宗 (昭60)
原 正朝 (昭60)	久松貞義 (昭60)	末松紀美 (昭60)
近藤雅也 (昭61)	佛坂 浩 (昭61)	伊達睦廣 (院昭62)
松永潤子 (昭62)	新屋ひろみ (昭62)	江藤りか (昭63)
藤津典子 (昭63)	森本 仁 (平5)	



長崎大学薬学部薬品合成化学同門会 於 博多都ホテル 平成24年9月30日

昭和50年卒同窓会報告～小倉『歴史スポット散歩』の余韻を残して～

緒方 信明（昭50）

秋晴れの2012年10月7日(日)、福岡・小倉駅のステーションホテルにて同窓会を開催しました。

参加人数は39名（男性20名、女性19名、写真参照）と、前々回の2005年、福岡市で行った時の41名と比べても変わらず、良かったと思います。

開催までに連絡がつくところは全員にお誘いの電話をかけ、また同級生を通じて連絡を取っていただきました。こうして、みんなの協力のもとで、多忙にもかかわらずこの同窓会参加に時間を割いていただき、盛会となりましたことに感謝申し上げます。ただ、冠婚葬祭などで参加したくても都合がつかない方もおられ、非常に残念でした。

まず、今回の開催地である小倉は増田君（小倉在住）との話し合いで決めました。そして、小倉で開催するのであれば、『歴史スポット散歩』でも入れようと当日は午後1時に集合を呼びかけました。

9月17日（日）の午後、藤武君を入れた3人で小倉ステーションホテルにてホテル側との打ち合わせを行い、集合場所や料理のメニューも決め、本番に臨みました。

さて、当日。私は、幹事の手前、集合2時間前の午前11時に小倉駅に着きました。ところが、待ち合わせ場所にしていた中央広場を見つけることができません。小倉駅の3階のフロアでは、10月5日～7日、「ふるさとうまいもの市」の催しが行われており、人でごった返し、目印の中央広場は主催側の店の中に埋もれてしまっていたのです。人混みの中から、懐かしい顔が一人二人現われ、お互いの元気を確かめ合いながら、予定の人数となりました。

午後1時、増田君を案内役に『歴史スポット散歩』を開始しました。小倉駅を魚町銀天街の方に下り、まず最初に森鷗外京町住居跡に行き、次に常盤橋（室町）に行きました。ご存知のとおり、常盤橋は、江戸時代、小倉から九州各地にのびる諸街道の起点であり終点でもありました。木の橋を渡って室町方面に歩いてみると、静か

なたたずまいの家並みが続き、長崎街道のおもかげが残っていました。

それから、旧小倉県庁舎（室町）に少し寄り、小倉城内の八坂神社を通り抜け、途中、休憩を取りながら、目的の松本清張記念館にたどり着きました。館内に入ると、まず目に飛び込んできたのは、時代背景を織り交ぜながら紹介された松本清張の経歴でした。あとは、書籍、無料公開されている映画、書籍に埋もれた書齋と書庫など、圧倒されました。見まわすと疲れたのか、いつの間にか、みんなは階下のソファで休憩を取っていました。

松本清張記念館を後に、旦過市場に行き、小倉名物の『ぬか味噌炊き』を買い、モノレールに乗って午後4時頃に小倉駅に戻りました。次に予定していた松本零士ミュージアムは自由参加とし、午後6時30分受付まで自由時間としました。

さていよいよ懇親会の開始です。幹事の一人である緒方の開会あいさつに続いて増田君の乾杯を行った後、さっそく食事に入りました。食事と歓談でしばらく経過した後、参加者からの近況報告をいただきました。ちょうど、定年を迎える時期でもあり、退職後は雇用延長、引き続き開局薬剤師として働く、定年が65歳であること、定年後は自分の時間を精一杯使う、定年後は別のところで第二の人生を全うするなど様々でした。

次に、第二の人生の過ごし方について参加者から寄せられたメッセージを紹介しますが、誰であるか推測してください。

「薬剤師として働き出して6年目です。まだまだ未熟者で「ひやりハット」を書かなくて済むぐらいまで、もう少しフルタイムで働きます。それと先日精神病院のゴルフコンペで優勝してしまい、年間幹事も務めないといけない状況なので、あと数年は精神科病院薬剤師として頑張ります。」

「15年位働いた薬局を定年（一応）退職しましたが、社長から『折角、国家資格を持っているのだから元気な間は働かないと』と説得されて、またパートで働くつもりです。今までと違ってゆとりを持って趣味や旅行も楽しむつもりです。」

「来年3月で定年退職です。精神的にも肉体的にもストレスフルな仕事だったので、定年後は時間に追われる生活はしたくありません。手抜きのできない性格のため時間がなくて、仕事を辞めたら、あれもしたいこれもしたいと考えていました。料理に時間をかけ豊かな食生活にしたい。庭で野菜を作りたい。読みたい本、気になる本を書き留めていたので、図書館通いをする。家にある全集を再読する。旅行をする。60歳代は元気なので夫婦で



海外旅行をしまくる。季節の美しいときに近場を散策する。おいしい物を食べにドライブする。いろんな友達と遊びまくる。英会話にチャレンジ！まだまだ仕事の途中です。」

「定年という状況ではありませんので、皆様の後ろ姿に学びたいと思います。」

「定年後、専門学校の専任講師となり、若い学生を相手に、こちらも気持ちが若くなり、楽しくやっています」

以上のように、定年後の過ごし方は、様々ですが、自分らしい生き方をする方がよろしいようで・・・。

2時間を超える懇親会も終わりに近づき、最後に、2年後の同窓会幹事となった石田君が閉会のあいさつを行いました。こうして、無事、めでたく終えることが出来

たのは、増田君、藤武君、松本（旧姓：黒崎）さんのおかげです。改めて感謝申し上げます。

さて、次の開催場所をどこにするか。いつまでも長崎と福岡との掛け合いでは面白くありません。そこで、関西、関東を一足飛びして北海道で開催することを決めましたが、決して思いつきではありません。心に温めておいたのです。石田君に安心してバトンタッチしたいと思います。

では、みなさん、次回、お会いするまで元気でいましょう。

追伸、この後、ほとんどが近くの二次会に場所を移し、70年代のカラオケを歌いまくったのは言うまでもありません。



平成 24 年 10 月 7 日 於 ステーションホテル小倉

長薬・大薬 25 回生（昭和 52 年 3 月卒業） 同窓会

山田 英之（昭52）

標記の同窓会を平成24年10月7日(日)にJR博多駅わきのホテルセンターゼ博多で開催しましたので、ご報告します。

私達の学年は薬学科と製薬化学科の2学科合わせて総勢88名（卒業時の数）でした。多くのクラスメートは現在年齢が還暦間近の高齢者予備群です。しかし、亡くなったのは2名のみ？〔橋口君と古河（旧姓：木田）さん〕で、まだまだ元気な方が多いと思われます。そのうちの29名が参集して、日曜日の正午前から会を始めました。最も遠くからの参加は盛岡市からで、それ以外にも関東東区などの遠隔地より大勢の参加が得られました。最も人数が多かったのは（10名未満）、やはり？長崎とその近郊地域からの参加でした。私達のクラスでは卒業

20年に最初の同窓会を開き（長崎市）、そののちは5年おきに開催しており、今回（4回目）は卒業35年の集まりでした。これだけの長い月日経っていても、殆どの方はかつての面影をはっきり残っていて、街でバッタリと出会っても、「アッ！」とばかりにお互いに指差し合うことが間違いありません。昭和52年卒の方や近隣の学年の方、あるいはかつての教官の先生方は集合写真をご覧になれば、なつかしく思い出して頂けるのではないかと思います。写真の脚注に、念のために氏名（姓が変わっている方は括弧内に旧姓を示す）を記載しておきますので、ご参照下さい。

会では時間の壁を取り除くのに数秒もかからず、学生時代や皆が抱える父母介護の苦労話などに花が咲きまし

た。話は尽きず、多くの方が会場ホテルのバーを借り切った二次会に移行して楽しみました。その後も三次、四次会と続き、最終組のお開きは22時近くだったようです（筆者は三次会で失礼）。恐らく、大声ではしゃいでいたのでしょう、翌日はしゃべり過ぎで喉がおかしい状況でした。しかし、懐かしい面々との半日は嬉しくも、楽しくも、懐かしくもあり、至上のひと時だったように思います。

上述の通り、私達の同窓会は卒後20年を皮切りに、5年おきに開いてきました。しかし、情けなや、年齢を考

えると5年間隔は少し長過ぎるかもしれず、次回（長崎市および近郊在住者のお世話の予定）は3年後にはとの意見も出ております。まだ、一度もお見えになっていないクラスメートで支障のない方は、是非に次回はおいで下さい。今回の同窓会は福岡市と近郊に在住する北村、坂田、末安（正）、末安（智）、安河内、山崎および山田でお世話をしました。特に、末安正典・智子ご夫妻のご尽力に負うところが大きかったことを申し添えます。



昭和52年卒業生の第4回同窓会 平成24年10月7日 於 ホテルセントラーゼ博多

参加者（敬称略）

前列〔左より〕：嶋村（大山）玲子、田中（北村）知子、渡辺（久家）真由美、末安（佐久間）智子、山田 英之、大塚（田口）由美子、松野 康二、佐藤（橋田）恵子

中列〔左より〕：安河内 一弘、長井（山下）千恵美、小嶺（大島）裕子、田中（山本）由美子、済川 妙子、前田（田口）幸子、奥島（長谷川）昭子、山口（藤井）美奈子、小田原（藤井）廣子、小林（湯浅）恵美子、末安 正典

後列〔左より〕：北村 良二、内藤 勉、坂田（諸橋）富美子、服部 泰、川口 純市、山崎 多佳子、今永（岩田）典子、光富 吉朗、山田（宮岡）千恵、國方 幸治

追記：写真の上部に写っているつり看板は、山崎さんの書

2年ぶりの「シバカリ会」が、今回も温かな雰囲気にもまれて開催されました

中嶋 幹郎 (昭57)

平成24年11月10日(土)、福岡県筑紫野市の“二日市温泉大観荘”にて、2年ぶりの「シバカリ会」が盛大に開催されました。前回は平成22年11月、前々回は平成21年9月と、最近は毎年一回、福岡市内天神のホテルにて「シバカリ会」を開催していたのですが、今回は2年ぶりに、それも二日市温泉の旅館にて開催する運びとなりました。

この「シバカリ会」の存在を40歳代以上の長薬同窓生の皆さんはご存知と思いますが、若い同窓生のために、どのような会であるかを最初に説明しておきます。本会は長薬の名門中の名門？薬剤学研究室の先々代の教授・柴崎壽一郎先生の教え子の集まりで、私が長崎大学に入学するずっと前の昭和40年代から続いている歴史のある研究室同門会です（これで間違いないそうです）。会員は昭和30年代後半の卒業生の先輩から平成に入ってから卒業生の後輩までで、人数は200名を越えています。私はこの「シバカリ会」が大好きで、柴崎先生の門下生となって以来、毎回欠かさずに出席しています。また現在は母校である長崎大学薬学部勤務していることもあり、「シバカリ会」の連絡係を務めております。

今年は、柴崎先生が米寿、そして来年には小西先生（柴崎先生とご一緒に、長年助教授として薬剤学研究室を支えておられた先生）が喜寿を迎えられる記念の年に当たることから、今回の「シバカリ会」は、柴崎先生ご夫妻と小西先生ご夫妻の4名を囲んだ「シバカリ会2012：柴崎先生の米寿と小西先生の喜寿をお祝いする会」として案内をさせて頂きました。その結果、前回と同様に50名を超える教え子が全国各地からお祝いのために集まり、柴崎先生ご夫妻と小西先生ご夫妻を囲みながらのとても温かな雰囲気の中での宴席となりました。



柴崎先生の教え子の皆さんはご存知の通り、先生はこのような宴席がとても苦手だと何時もおっしゃっているため、「シバカリ会」の折には、先生が逃げないように、誰かがご自宅へ先生をお迎えに行き、先生と奥様を会場

までお連れすることが常でした。しかし、柴崎先生が福岡県の甘木市から筑紫野市へ引っ越されたため、今回の「シバカリ会」の開催も2年ぶりになったのですが、先生が「自宅の近くなれば、いかな～あかん～」とおっしゃってくださったことから、新居の近くの二日市温泉にて集えることになった次第です。柴崎先生は、今回は逃げることもなく？、自力にて会場まで来て下さいました。本当にありがとうございました。

今回の「シバカリ会2012」も前回と同様に、私と同級生の三浦（真茅）修己くん（昭57）の二人が幹事役を務めました。宴席では、三浦くんの的を得た上手な司会進行のおかげで、参加者全員がステージに立ち、各自の近況を紹介し、柴崎先生と小西先生のお二人へメッセージをお伝えすることができました。またお二人へは、“ちゃんちゃんこ”と八田氏（昭56、長崎市在住）が30数年前の学生時代に描いたお二人の似顔絵入りマッチ箱を、ある方から頂戴したため、その絵をプリントしたオリジナル切手シートなどをプレゼントさせて頂きました。

この「シバカリ会」では、学生時代に薬剤学研究室と一緒に過ごした先輩、同級生、後輩と当時の懐かしい思い出を語り合ったり、また今の仕事や家庭の近況等を話し合ったりすることができますし、またこの「シバカリ会」で知合った先輩方との旧交を温めることもできます。私はいつもその中から元気をもらっていると感じています。今回も懐かしい皆さんと会うことができ、とても幸福の時間を過ごさせてもらえました。「長薬同窓会報」への報告の折には必ず書かせて頂いておりますが、このような素晴らしい研究室に入ることができ、薬剤学研究室の中で、柴崎先生と小西先生に教を頂く機会に恵まれた自分は、とても幸運だったと思っています。そして、そのお陰があって、現在の大学人としての自分があると心から感謝しております。このように「シバカリ会」は魅力溢れる集まりなのですが、「シバカリ会」に参加しての一番の楽しみは、今の柴崎先生の元気なお姿を拝見しながら、また柴崎先生と小西先生とのお元気な掛合い？をお聞きしながら、自分が学生時代に薬剤学研究室にいた時と同じように、先生方の楽しい大阪弁調子のマシンガントークを聞かせて頂けることです。このトークの渦の中にわが身が溺れていく心地良さは、先生方の教え子にしか理解できないかも知れませんが、私にとって最高の至福の一時です。今回の「シバカリ会2012」でも先生方のトークは健在で、会場は常に温かい爆笑の渦にもまれていました。

さて、皆さんが気になる次回の「シバカリ会」ですが、翌日の朝食会場で私が柴崎先生にご確認したとこ

ろ、参加者の皆さんの願いがかなったのか、「佐世保はしんどいが、ここならば、来な～あかんかな～」とおっしゃっていただきました。素晴らしい!!ありがとうございます!!

そこで、「シバカリ会」会員の皆さんに、次回の「シバカリ会」の予定をご案内させていただきます。時期は来年11月、会場は同じ二日市温泉になると思います。どうぞ宜しくお願いします。今回、欠席された皆さんとは、是非、次回の「シバカリ会」でお会いしたいですネ。

今回も、実に楽しい栄養たっぷりの「シバカリ会」を、教え子一同にプレゼントして下さった柴崎先生並びに小西先生に感謝するとともに、先生と奥様方の益々のご健康を祈念して報告とさせていただきます。

今回の出席者は次の通りでした（敬称略）。なお、間違い等がありましたら何卒ご容赦ください。

恩 師：柴崎壽一郎先生ご夫妻、小西良士先生ご夫妻
 教え子：田中 博輝（昭39） 松村(田中)祐子（昭40）
 江藤 好信（昭40） 松本 功治（昭41）
 伊豫屋偉夫（昭41） 平山 文俊（昭41）
 太田 和子（昭41） 黒田 諒美（昭41）
 山中 國暉（昭43） 植木 俊行（院昭47）

小池 正博（昭47） 中西(高司)多香子（昭47）
 相川 康博（昭48） 井手 清（昭48）
 森 つよ子（昭49） 今村 明久（昭49）
 橋間(高瀬)真理子（昭50） 三島(坪根)みずほ（昭50）
 松本(黒崎)美智子（昭50） 小笠原正良（院昭51）
 高橋浩二郎（院昭52） 末安 正典（昭52）
 末安(佐久間)智子（昭52） 坂田(諸橋)富美子（昭52）
 大淵(横井)倫子（昭53） 坂元(草道)まゆみ（昭53）
 福田(中久保)依里（昭53） 藤井 実（昭53）
 佐々木 均（昭53） 長尾 光益（院昭55）
 佐々木(山内)喜美子（昭55） 都留 君佳（昭55）
 大田寿美子（昭56） 高崎(関)光恵（昭56）
 木山(池田)容子（昭57） 林田(林田)まゆみ（昭57）
 中嶋 幹郎（昭57） 三浦(真茅)修己（昭57）
 首藤 英樹（昭58） 三浦(三浦)徳子（昭58）
 相葉(池田)啓子（昭58） 磯部 有紀子（昭58）
 林(櫻井)幸恵（昭59） 井口(岩川)浩子（昭59）
 内海 美保（昭59） 鷲尾 兼寿（昭59）
 木山 雄一（昭59） 中村 忠博（昭59）
 本行(福田)千里（昭61） 高山(原口)陽子（昭62）
 芝口 浩智（昭63） 岡村(柴田)真記子（平2）



平成 24 年 11 月 10 日 於 二日市温泉 大観荘

昭和 57 年 3 月卒業生の卒業 30 年記念同窓会を開催しました

中嶋 幹郎 (昭57)

平成24年6月9日(土)午後6時から、我々昭和57年3月卒業生の学年同窓会が3年ぶりに開かれました。

私たち昭和57年3月卒業の同級生は、これまで3、4年に一度定期的集まり、みんなで親睦を深めてきました。前回は、ちょうど3年前の平成21年3月7日に大学正門前の「フラワーメイト」に集まり、そこから懐かしい文教キャンパスを眺めながら宴会を楽しむという“キャンパス同窓会”を企画しました。その夜は、食事を終えた後には、会場を薬学部に移し“夜の薬学部ツアー”を行うなど、とても弾んだ楽しい夜を皆で愉快地過ごすことができました。

そこで、今回は、今年が卒業30年の節目の年に当たることから、初めて長崎を離れ、博多の街で卒業30年記念同窓会を開催する運びとなりました。そのため、まずは福岡県在住の6人の有志「中嶋(窪地)敏樹さん、天野(甲斐)順子さん、池田光政さん、清水(浜田)万亀子さん、三浦(真茅)修己さん、山下(宮島)妙子さん」に、私と一緒に“7人の言い出しっべ”になってもらい、2月に博多で作戦会議?を開き、会場は天神にある玄海のお刺身やいかの活き作りが美味しいと評判のお店「大名つつじ庵」にすることに決めました。また今回は“7人の言い出しっべ”のなかの池田光政さんの顔?で、お値打ち料金による“グルメ飲み会”を実現するこ

とことができました。

今回は、卒業30年記念同窓会とあってか、久しぶりに会う懐かしい顔の同窓生も多く、前回は上回る35名の集まりとなりました。

出席者は以下の通りです。(敬称略)

木山(池田)容子、隅中(上田)芳美、池崎(浦川)尚子、天野(甲斐)順子、森田(酒井)明美、石橋(武富)福美、堀田(鈴木)千加子、中嶋幹郎、長柄真司、長野(三浦)豊子、岡本(宮岡)信恵、山川恭代、池田光政、池田(池田)直美、前村(池増)めぐみ、本多(大森)裕子、中嶋(窪地)敏樹、高良真也、後藤洋、久保(椎葉)恵子、重永信次、松村(清水)愛子、住吉 昇、寺尾敏光、中崎(土肥)里香、中倉政司、中西(中村)美由紀、長尾祐二、清水(浜田)万亀子、福崎泰史、福崎(平尾)朋子、三浦(真茅)修己、山下(宮島)妙子、入船(宮永)直美、山下親正。

また、今回は残念ながら欠席の連絡を頂いた方は以下の通りです。

嶋本正実、林田(林田)まゆみ、中村(福島)慶子、尾崎(森川)俊子、渡辺修二、河野美重、阿部(木ノ上)千保子、伊藤俊彦、平山潤子、藤田(御手洗)聡子、斉藤幸次。

私は卒業後、長崎大学に勤務しているため、学年同窓



平成 24 年 6 月 9 日 於 大名つつじ庵 (博多)

会には毎回欠かさず出席しています。学生時代の同級生と当時の懐かしい思い出を語り合ったり、また今の仕事や家庭の近況等を話し合ったりすることができる学年同窓会の席は、とても気持ちが休まる癒しの空間で、いつも沢山の元気をもらっています。

今回の学年同窓会でも、再会した直後には、「へー昔の〇〇君かー、へー昔の〇〇さんかー」という感じの同窓生もいましたが、会話がスタートすると卒業からの月日はあつと言う間に縮まってしまうました。

我々の学年は、当時の大学入試制度の共通一次試験が始まる1年前の昭和53年4月に大学に入学した学年で、昭和57年3月卒業生86名の内訳は、女子学生が50名に対して男子学生が36名と、当時としては男子学生の割合が極めて多い学年でした。今の時代の薬学部では、男子学生の人数が36名といっても少ないぐらいですが、当時の薬学部では、男子学生の割合がとても高いたいへん活発

な学年であったと思います。そのような理由もあり、昭和57年3月卒業生は、当時開催されていた初夏の合宿研修会の前コンや後コンや、秋の薬学祭など何か催事がある度に、とても活発に活動し過ぎたためか、薬学部の先生方の記憶や、学年が異なる同窓生の皆さんの記憶に、強い印象を残している有名人が何人も輩出されている学年だと自負しています。

「大名つつじ庵」での美味しい食事でお腹が一杯になった後は、会場を「カラオケボックス」に移し、夜遅くまで皆で愉快地に盛り上がることができました。最後は、次回同窓会での再会を約束してのお開きになりました。

今回、出席できなかった昭和57年3月卒業生の皆さん！同窓会は楽しいですよ。次も、必ず同窓会を企画しますので、その時には是非お会いしましょう。

昭和59年卒業生 四半世紀記念同窓会 in 長崎

S59卒業生同窓会幹事 一同

昭和59年3月に卒業し、早25年以上が過ぎてしまいました。本当は2年前に卒後25年（四半世紀）の同窓会を開催するはずでしたが、学年理事の怠慢により、開催することができないままになっておりました。伊藤 潔、塩崎律子、宮崎文美と中村忠博の4名の幹事に長崎在住の方にも協力してもらい、平成24年1月21日(土)18時半頃から長崎ベストウエスタンプレミアホテル（旧プリンスホテル）15階レストラン「ニューヨーク ダイニング」で開催致しました。

■長崎の夜景が同窓会を盛り上げました

大学入試センター試験の翌週の1月21日(土)に開催し、34名のおじさん、おばさんの大同窓会になりました。開始時間も18時半頃と大雑把な設定にもかかわらず、なんとほぼ全員が18時30分前には会場入りし、会が始まる前から懐かしい顔を見て、ワイワイガヤガヤと大盛況でした。卒業以来あったことのない人も多く、中には「あの人誰？」と首をかしげる人もあり、卒業以来の時の経過を感じることもありました。話をしていくうちに自然と大学時代のそのままの雰囲気同窓会になりました。

同窓会が始まるころには、かすかに西の空に薄明かりが残っていましたが、会が盛り上がるに従い、漆黒の夜空に長崎の街の灯りが映し出され、非常に美しい夜景が広がる中の同窓会でした。久しぶりの長崎という人もあり、学生の頃には入れないようなホテルからの夜景を存分に楽しんでもらいました。

■食べ放題、飲み放題でお腹も満足

長崎でも有数の高級ホテルでの同窓会にもかかわらず、幹事の宮崎さんのご紹介で食べ放題、飲み放題にし

てもらい、食べ物や飲み物に不自由のない会となりました。最初こそは、料理に並ぶ列ができましたが、すぐにその列も無くなり、「食べものが足りないぞー」という食いしん坊にも満足してもらった同窓会だったと思います。飲み物もビール、カクテル、ソフトドリンクなどなど、いろいろな種類の飲み物から選択し、だんだん遠慮も無くなる年齢になってきたおじさん、おばさんに飲み物を作るレストランの人も大忙しだったと思います。

楽しい時も過ぎ、開始して2時間以上があつという間に過ぎたのに驚きを覚えつつ、最後に酔っ払い大集合の集合写真を撮り、一次会が終了いたしました。

■深夜まで続いた二次会

レストランの係の人がホッとした顔をしたのかどうか知りませんが、ベストウエスタンプレミアホテル15階の夜景を見ながらの同窓会も終わりを告げ、二次会の呼びかけを行うと、家の都合で本日中に福岡まで帰らなければならない1名を除き、34名中31名が二次会へ参加しました。二次会は「パーティールームHANA思案橋店」へ移動し、ここもアルコール飲料、ソフトドリンクが飲み放題で、女性の参加が多いこともあり、ここでもカクテルの注文が飛び交いました。

二次会も21時過ぎから4時間があつという間に過ぎ、気がつけば深夜の1時過ぎでした。この後、朝まで飲んでいた人がいたのかどうかは不明ですが、まだまだ時間が足りなかった同窓会となりました。

■次は箕面市？で開催決定

さて、今回の同窓会を十分に楽しんだ面々は、二次会で次の同窓会の相談が始まり、どこでするか、いろいろ

な案がでしたが、2年後に大阪府の箕面市で鷺尾君、森藤（旧姓阿波谷）さんが企画することとなりました。さて、次はどのような同窓会になるかS59卒の方々は楽しみにしてください。

■最後に

今回は、受験生を持つ人も参加しやすいようにしたつもりだったのですが、やはり受験真っ最中の子を持つ親

としては、同窓会に参加できなかった方もありました。残念ながら、今回の同窓会に参加できなかった方々も、次の同窓会には、是非参加して下さい。楽しい時間を過ごしましょう！！

それでは、次の幹事の鷺尾君へバトンを引き継ごうと思います。



平成 24 年 1 月 21 日 於 長崎ベストウエスタンプレミアホテル

昭和 60 年度入学同窓会 ～続報～

白川奈奈子（平1）

2年前の長崎で、私達は二十数年ぶりに再会し、また2年後の福岡での再会を約束し、それぞれの日常生活へと戻っていきました。日々の仕事に追われ、再会を約束していた九州山口薬学会の北九州での開催の案内を目にし、時間が経つのは早いなあと思っていた矢先、福岡の同窓生から同窓会の案内が来ました！あの約束が…実現しました。福岡での開催ということで、長崎からの参加が難しい方もたくさんだったのですが、福岡はやはり便利ですね。前回の同窓会とはまた違ったメンバーが集まることが出来ました。遠くは北海道から、もちろん東京・大阪方面からの参加も多く、19名が博多に集まりました。

ちょうど台風が九州に近づいてきていて心配もしましたが、博多には無事に皆が集まりました。帰りは大変だった人もいたのかも…。一次会は、近況報告から昔話にと話題は尽きず、大盛り上がりとなりました。メ

ニューを見るときに「若干見にくくなってきたのよね」とつぶやくと、「一緒！私も！」との声。40代も後半に入ったからね！と皆で笑い飛ばしつつ、二次会へ。1名は翌日が仕事のため抜けないといけなかったのですが、残り18名は全員が二次会に向かい、またまた午前0時過ぎまで盛り上がりました。二次会で数名が帰りましたが、残ったメンバーは、帰るには名残惜しくて、営業中のカラオケボックスへと向かっていました。三次会のスタートです。広々とした部屋に案内されたのに、一箇所に集まって、歌も選ばずに話に夢中でした。学生の頃には、ほとんど話したこともない人とも会話が弾み、学生の頃の暴露話などに盛り上がりました。最後に、学生の頃に流行っていた曲を歌って盛り上がり、また何年か後に再会できることと楽しみに、今回の同窓会もお開きとなりました。男性陣は、締めめのラーメンを食べに行ったようですが…博多ですもんね。

中島憲一郎教授 最終講義・退職記念祝賀会

和田 光弘（平4）

中島憲一郎教授が平成24年3月末日をもって本学を退職されました。

中島先生は、昭和48年に長崎大学大学院薬学研究科を修了後、昭和48年から薬品分析化学助手、昭和58年から薬品分析化学助教授、平成8年から衛生化学教授、平成11年から医療情報解析学教授を勤められ、その間研究・教育に邁進され多くの人材を世に送り出してこられました。



この間昭和60年12月～61年9月には、文部省在外研究員として米国カンザス大学、タケル・ヒゲチ教授の下で過シュウ酸エステル化学発光に関する試薬の合成や反応機構の解明についての研究を行ってこられました。また平成13年度から平成17年度まで薬学部長・薬学研究科長を二期務められ、薬学部校舎の改修や医歯薬学総合研究科の設置において学部を牽引してこられました。さらには、平成20年10月～23年9月まで長崎大学副学長として産学官連携を担当され、大学と社会との接点を創出する事業に大いに貢献されました。

学術・研究面におかれましても高速液体クロマトグラフィーと蛍光・化学発光などの発光分析法を組み合わせた薬学的研究を展開してこられ、これまでに300以上の原著論文や総説を発表されております。長年にわたるこれらの成果により日本分析化学会学会賞、日本薬学会学術貢献賞及びクロマトグラフィー科学会学会賞を受賞されております。特に発光分析に関する研究では世界的にも高い評価を受けており、また最近では平成24年6月にルミネッセンス分光法に関する国際シンポジウムから名誉科学委員会委員の称号を授与されております。この他、平成16年には日本分析化学会九州支部長、平成19年には臨床化学会九州支部長を勤めるなど学会活動に尽力しその活性化に貢献されました。

中島先生のご退職にあたり、畑山 範先生をはじめ薬学部教授の先生方の発起により平成24年3月16日に薬学部多目的ホールにて最終講義を、その後、長崎ベストウエスタンプレミアムホテルにて退職記念祝賀会を開催いたしました。中島先生の最終講義を聴講しようと、薬学部多目的ホールいっぱい集まった職員、卒業生、在学生に対して、講義では39年間在職された長崎大学での研究成果について、深くかかわった共同研究者、卒業生の方々の名前を挙げながら、当時の苦労話と共にお話いただきました。講義時間が60分と非常に短くまだまだ話を聞いていたい気持ちでいっぱいでしたが、残された後

輩たちに研究に対する姿勢と情熱を伝えていただきました。



退職記念祝賀会では、片峰 茂学長をはじめ秋山修三長崎大学名誉教授、今井一洋武蔵野大学教授、山口政俊福岡大学教授と中島先生と親交の深かった先生方の他、卒業生を含む160名を超える多くの方々に参加いただきました。お忙しい中お集まりいただいたことこの場を借りてお礼申し上げます。また楽しい時間はあっという間に過ぎ、和やかな雰囲気の中で盛会のうちに終わることができました。その後の開催された卒業生のための二次会



の最後まで先生は参加者の一人一人に声をかけられ当時の思い出話などに花を咲かせておりました。会場の関係で、多くの卒業生に参加いただく事ができませんでしたことを、この場を借りてお詫び申し上げるとともに、改めて中島先生を囲む会を開催したいと考えております。

退職後、中島先生は長崎国際大学薬学部教授として研究・教育に当たられております。先生には可能な限りお

勤めいただき、一人でも多くの学生に薫陶に浴する機会を与えていただきたいと切にお願いするところでありませ

す。最後に先生の末永いご健康と益々のご活躍を祈念致しまして報告とさせていただきます。



平成 24 年 3 月 16 日 於 長崎ベストウエスタンプレミアホテル

安藤 薫（旧姓：杉崎）さんを偲んで

中尾 有里（平7）

「薫が11月10日になりました。」ご主人様より電話で告げられ、あまりにも突然の事に、頭の中が真っ白になりました。陽気で元気な彼女の姿しかどうしても思い出せず、今でも本当に信じられない現実、悲しい気持ちでいっぱいです。

テニスが好き、歌って踊るのが好き、お酒も好き、好奇心旺盛で頭の回転が早く、陽気で、甘えんぼで、甘え上手で彼女のために何かしてあげたいという気分させられ、でも心も強く芯が一本通っていて、しっかりしているところもあって、思いやりがあって、と挙げるときりがなくらい魅力的な人でした。だから、多くの方に愛され、慕われていたと思います。

大学時代、そして卒業してからも仲の良かったとこちゃん（島 利江さん）、大石（理江さん）、私の4人でよく遊

んだり、旅行に行ったりして楽しい時間を共にしました。

ご結婚後はご主人のお仕事の関係で遠方にお住まいでしたので、帰省された時に会うくらいでしたが、お母さんになっても魅力は昔と変わらず、いつ会っても楽しい気分になれる人でした。最後に一目会ってお話出来なかったことが、残念でなりません。

彼女も生きる気満々で、退院したらあれしよう、これしようと考えを巡らせていたようで、電話を頂いた日も実は旅行に行く予定で手配もしていたとご主人様は話されていました。

最愛のご主人様と4人の可愛い子供さんたちと一緒に、まだまだたくさん過ごしたかったでしょう。一緒にやりたいこともあったでしょう。すぎちゃん、悔しかったよね。でもよく頑張ったんだよね。

ご家族の皆様の悔しい思い、悲しい気持ちを思いますと心が痛み、お慰めする言葉も見つかりません。すぎちゃん、今までありがとう。39年という短い生涯を駆け抜けて逝ってしまったけれど、あなたの笑顔はみんなの記憶の中でいつまでも明るく輝いていますよ。

在りし日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。
合掌



右端が薫さん

アラフォー同窓会

平良 文亨（平9）

平成24年11月3日（土・祝）に、平成9年卒業生による同窓会を長崎市内で開催しました。卒後15年を経過し、2回目の同窓会となりました。前回は平成10年及び平成11年の卒業生とともに3学年合同の大掛かりな同窓会でしたが、今回は我々同窓生のみでの開催となりました。開催にあたり、どの程度参加者が集まるのか不安でしたが、やはり子育て真っ最中の人が多く、今回は17人という少数精鋭？の同窓会でした。そのような中でも、九州各地はもとより遠路はるばる関西方面や関東方面から複数ご参加いただき、幹事としては嬉しい限りでした。

同窓会前には、準硬式野球部のメンバーを中心に野球のミニゲームを近くの公園でしました。簡単なゴロを必死に追いかけて、結果ズッコケ、新調したスーツを台無しにするメンバーなど運動不足を超えてかなりの老い？を感じました。

あれから15年…本当に月日の経つのは早いもので、あっという間に皆40代目前の立派なアラフォーということで、あの頃の若さはないもののそれぞれ学生当時の懐かしい話や近況報告など楽しい時間となりました。さすがに皆の酒量は激減し、逆に学生の頃何であんなにお酒を飲めたのか不思議なくらいでした。しかし、ほとんどの参加者が二次会までご参加いただき、それぞれ忙しい毎日の生活の中で、少しはリフレッシュできたのではないかと思います。

次の同窓会はいつでしょう？子育ても落ち着いた頃でしょうか？既に二度幹事役を仰せつかっているのですが、さすがに次は彼ら（Kくん、Pくん、Yくん）が買ってでてくれるものと信じています。では、その頃まで皆さんメタボ対策とアンチエイジングを！



平成24年11月3日 美男美女？軍団 於 京華園

H11 卒クラス会開催報告

水野 和美 (平11)

皆様ご無沙汰しています。H11年卒水野(白山)和美です。本厄の36歳、同級生と出会う前と、出会ってからと、ほぼ同じ年月が過ぎました。人生の一つの折り返し地点として、今年7月に私が学年幹事になって初めての同窓会を企画しました。

30代も半ばを過ぎると、皆長崎にとどまっておらず、日本各地で頑張っています。できるだけ広範囲から参加してもらいたいと思い、今回は博多で開催しました。会場は、博多駅前「手羽屋」です。元々は長崎大学前にあった、赤提灯の小さな居酒屋でした。それが今は、博多駅前に本店ビルがあります。博多開催とはいえ、長崎ゆかりの手羽屋名物「とろろ磯辺揚げ」と「手羽先のから揚げ」を食べたかったのです。

連絡がつかない人、ついたのに私の情報発信がうまくいかなかった人、ごめんなさい。不手際の多い幹事でしたが、九州山口各地から20名+お子さん2名が集まってくれました。再会に感謝します。

久しぶりということで、改めてそれぞれ近況報告をしてもらいました。10年前にはわからなかったけれど、同級生って良いなあとしみじみ感じる2時間でした。4年間同じ大学で過ごした人たちが、いろんな分野で頑張っ

ている姿に励まされました。卒業してお別れではなくこれからも、つながりを持って助け合う関係性を保ち続けていきたいと思います。

さて、最後に川俣洋生の音頭による一本締めで手羽屋を後にしてから、時間に余裕のあるメンバーで二次会開催です。ここで幹事を松永しのぶに交代いたしました。酒も進み、学生に戻った気分で、一次会よりもかなり和んだ会になりました。

参加してくれたみんな、ありがとう。また会いましょうね。残念ながら会えなかったみんな、また企画しますよ。その時にはぜひ来て下さいね。田中博隆との企画で、男性41歳厄払い同窓会が、数年後にあるかも!? 酔った勢いでそんな話題も。秋に参加する学会の情報交換などもして、再会できると良いね、なんて話も。

そして、私からのメールが届かなかったみんな。ごめんね。現在、住所だけでなく、メールアドレスによる同窓生名簿を作成中です。今後のために、是非ご一報ください。一言近況を添えてもらえると嬉しいです。

(7sorcerers@gmail.com)



平成24年7月15日 於 手羽屋(博多駅前)

日本線維筋痛症学会第4回学術集会および分子薬理学研究室同門会

永井 潤 (平18)

2012年9月15日、16日に植田弘師先生が会長を務める線維筋痛症学会が長崎で開催されました。急な連絡であったにも関わらず駆けつけてくれた分子薬理学研究室のOBの方のためにも簡単な同門会を開きましたので、ここに報告させていただきます。

線維筋痛症とは、みなさんご存知でしょうか。この病気は、全身の疼痛を主症状として不眠、全身の疲労感や種々の精神神経症状を伴う原因不明の疾患であります。我が国の人口の2%にも及ぶといわれており、推定200万人以上の患者が存在するという統計データがあがってきています。しかしながら、この疾患に対する臨床医の認識不足からの確な治療はおろか、診断すら十分になされていない状況が続いています。本学会が中心となりガイドラインの作成などを行うことやまた数年前の医師国家試験の出題範囲に含まれるようにするなど積極的に活動することにより認知度は高まりつつあります。さらに、今年6月に初めての治療薬プレガバリン（リリカ）

が承認され、それに続く動きもあり、やっと治療の道筋がみえてきたところでもあります。植田先生が会長を務めた今年度は、長崎での開催であったにも関わらず、300名を超える医療関係者が参加し、大盛況であったことは、同時にこの疾患の注目度が高まりつつあることを意味しております。学会は、植田先生をはじめスタッフにより綿密に計画されており、また当日の研究室の学生およびOBの方の補助もありスムーズに進行することができました。また、ブリックホールの中で簡単な同門会および周辺のお店で二次会を開きましたが、久しぶりに同門の懐かしい顔ぶれがそろい、楽しい時間を過ごすことができました。台風が来ているにも関わらず、来て頂いたOBの皆さん本当にありがとうございました。また、次回このような機会を設けるときは、前もって連絡させていただきますので、今回予定が合わなかったOBの方も是非次の機会には予定を調整して頂けると幸いです。



学会



同門会

平成 24 年度九薬連

矢野 玄馬 (学部3年)

平成24年5月3日～5日にかけて、第55回九州薬学連盟体育大会が崇城大学主催のもと熊本で行われました。今回の試合を通して友との絆が深まり、また遠くから駆けつけてくださった先輩方の応援をうけ、改めて薬学サークルの楽しさを実感できました。

結果は以下の通りです。

野球部 (準優勝)

・一回戦	第一薬大	0 - 7	長大
・二回戦	崇城大	7 - 14	長大
・決勝戦	熊大	11 - 2	長大



バレーボール部 (三位)

・予選	長大	2 - 0	崇城大
	長大	0 - 2	福大
・三位決定戦	長大	2 - 0	第一薬大

硬式テニス部 (男子)

・予選	長大	6 - 1	熊大B
	長大	3 - 4	長崎国際大
・準決勝	長大	3 - 4	熊大A
・三位決定戦	長大	0 - 4	九保大



硬式テニス部 (女子)

・予選	長大	4 - 3	第一薬大
	長大	5 - 2	福大
・準決勝	長大	2 - 4	熊大
・三位決定戦	長大	3 - 4	熊大

バスケットボール部 (男子) (三位)

長大	勝ち	長崎国際大
----	----	-------

長大	負け	九大
長大	負け	崇城大



バスケットボール部 (女子) (三位)

長大	負け	九保大
長大	負け	福大
長大	負け	熊大



バドミントン部

長大	3 - 2	崇城大
長大	1 - 4	熊大
長大	1 - 4	福大



サッカー部



グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動

鎌水 大介（学部3年）

平成24年8月5日、22名の学部学生・院生、14名の同窓会役員と事務局関係者の方がグビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺を猛暑の中、草むしりや落ち葉拾いなどの清掃活動を行いました。1時間ほどの作業を終えた後、記念撮影をし、慰霊碑に線香をあげて亡き先輩方を追悼しました。

私はこの清掃活動に参加するのは3回目ですが、毎年戦争について深く考えさせられる機会となっております。出身が長崎ではない私は、戦争や原子爆弾について実際の体験談に触れることが少なかったため、ここでお聞きする話を通じて戦争の悲惨さ、残酷さなどを直に学ぶことができ、私たちが今どれだけ平和な世界を生活しているのかということを実感させられます。

清掃活動終了後には近く中華料理店で参加された方々と会食をしました。始めに薬学部校歌を斉唱し、食事を取りながら懇談しました。普段接することのない先輩方や年配のOBの方とお話をさせていただき、楽しくもまた勉強にもなる貴重な機会となりました。

今回は13回目となるこの活動が20回、30回といつまで

も続くことを願います。

最後になりましたが多忙の中時間を割いて参加して下さった皆様本当にお疲れさまでした。来年は今年以上の方々がこの活動に参加して下さることを願っております。



旧小野島校舎跡記念碑清掃

稲嶺 達夫 (平18)

平成24年11月4日の日曜日、旧小野島校舎跡記念碑周辺の清掃が行われました。事前の雨予報にも関わらず、当日は天候に恵まれ、気持ちの良い秋の空気の中で1時間弱の作業を終えることができました。作業後に、きれいになった記念碑を参加者全員で囲んでの記念撮影を行いました。その後、諫早市内の鰻屋での食事会となり、先輩方のお話を伺いながら楽しいひとときを過ごすことができました。初参加の私は、その場で初めて小野島校舎設立の経緯を伺い、先輩方が紡いできた長崎大学薬学部の歴史があって初めて今



の環境があるのだと改めて感じました。小野島校舎で学ばれた先輩方もご高齢になられて、このような場にいらっしゃることも難しくなってきたとのことでしたが、後輩一同でこの行事と歴史を護っていきたいと思いました。最後に、今年の参加者のお名前は次の通りです。山中会長ご夫妻、吉田(昭37)、中村(昭44)、田原(昭51)、濱田(昭54)、藤島(平3)、椛島(平4)、岸川(平10)、松尾(平15)、稲嶺(平18)、武次(事務局)。ご多忙の中、ご参加頂き本当にありがとうございました。



第4回長崎大学ホームカミングデー

椛島 力 (平4)

平成24年11月24日に第4回長崎大学ホームカミングデーが開催されました。「ホームカミングデー」を初めて耳にされる方もいらっしゃると思いますので、少々ご説明しますと、卒業生に長崎大学に帰ってきてもらい、大学の近況に触れ、旧友や恩師との再会、在校生と交流・親睦を深めてもらうことを目的に、長崎大学および長崎大学全学同窓会が共催で実施する年に一度のイベントです。毎年、長大祭にあわせて開催され、今年で4回目となります。

毎回、メインとなる講演があるのですが、今年はジュディ・オングさんによる『輝いて生きる』と題する講演がありました(私の年代以上の方には、大変なじみのある方だと思うのですが、今の学生にはあまりピンとこないようです)。ジュディ・オングさんは、今年のランタンフェスティバルの皇帝パレードに皇后役で出演され、また、長崎県美術館で開催された木版画展が好評だったこともあり、講演を依頼したと伺っています。私自身、どのような話をされるのだろうと思っていましたが(正



直なところ期待していなかったのですが)、 「魅せられて」の裏話や、国際化における言葉の役割、木版画を通してのご自身の体験談などユーモアを交えながら講演され、講演時間の70分があっという間に過ぎるほど大変面白いものでした。この他にも、ロマンツアー合唱団や管



ロマンツアー合唱団



管弦楽団



龍踊部



チアリーディング部

弦楽団の演奏，龍踊部やチアリーディング部の演技があり，会場の中部講堂は大いに盛り上がっていました。

夕方からは，会場を生協食堂2階に移し，ホームカミングデー・パーティーが開会されました。長薬同窓会からは20名の卒業生が参加されましたが，9つの同窓会，

同門会の卒業生が一同に介し，軽音楽部の演奏やよさこい部の演技を鑑賞しながらの楽しい一時でした。

また来年も，長崎大学ホームカミングデーが同じ時期に開催されると思いますので，機会がございましたら是非ご参加ください。



パーティー



パーティー

クラブOB会だより

平成24年度野球部OB会と親睦試合記

OB会

鎌水 大介 (学部3年)

平成24年11月17日の土曜日、江山楼浦上店にて毎年恒例の野球部OB会が開催された。今年の参加者はOB31名と現役部員34名でした。

まず、会を開催する前に、今年は市川正孝先生(昭33)、渡辺三明先生(昭42)の13回忌にあたり、また、準硬式ボールを毎年寄贈してくださっていた今泉貴世志先生(昭31)が今年8月にご逝去されたため、御三方を偲んで、西脇金一郎先生(昭33)、古川 淳先生(昭25)からご挨拶をいただいた後、黙祷が捧げられた。

昨年度まで野球部顧問を務めていらっしゃった伊藤 潔先生(昭59)が今年度から九州保健福祉大学の教授に就任されたため、御祝いとして花束が贈られ、近況報告をしていただいた。また、それに伴い中嶋幹郎先生(昭57)が部長に、大山 要先生(平12)が顧問に就任された。その後小西良士先生の乾杯のご発声で、OB会がスタートした。

中華料理を口に運び、お酒を飲みながら、最初は別々のテーブルに座っていたOBと現役部員が、時間が経つにつれて両者が入り乱れていき、会場は笑い声に包まれた。

そして、今年度は西脇先生から準硬式ボールを贈呈していただき、現役部員により巻頭言と校歌が歌われ、伊藤先生から次の日のOB戦のOBチームのオーダー発表が行われた。そのメンバーは、ピッチャー：川崎雄太(平21)、キャッチャー：古賀健太郎(平20)、ファースト：角田正之(昭33)、セカンド：桑田拓也(平21)、サード：山下輝樹(平24)、ショート：山本 豊(平13)、レフト：牛嶋信人(平15)、センター：山崎達朗(平21)、ライト：坂野綱則(平21)。

最後に板倉先生(昭49)に万歳三唱をお願いして、この会を締めくくっていただいた。お忙しい中ご参加して下さった上に部費まで寄付して下さったOBの皆様方本当にありがとうございました。



偲ぶ会

大山 要(平12)

OB会後、市川先生がご最冥にされていたピアノバー Chitoに場所を移して、3名の先生方を良く知るOB諸氏20名で偲ぶ会を開催しました。角田正之先生(昭33)から野球部創成期のお話をうかがい、3名の先生方のご功績を改めて知ることとなりました。先輩方と野球部長の先生方が築いてこられた野球部の顧問に就任するに当たり、身の引き締まる思いと、野球部がさらに発展するよう微力ながら下支えする決心を新たにした次第です。

親睦試合(OB戦)記

森田 知樹(学部3年)

親睦試合の前日の土曜日は雨の予報で日曜日のグラウンド状況が不安視されていましたが、寒さも控えめの好天候に恵まれ、今年もOBチームとの親睦試合が始まりました。試合は例年通り午前10時にプレーボール、OBチームは守備位置がそのまま打順となり、「OB側のサヨナラ勝ちを見たい」という大山先生の要望から現役チームの先攻となりました。1回表、守るOBチームのピッチャーは川崎さん。連打からランナー2・3塁のピンチを迎えるが、5番の下岡(学2)をピッチャーゴロに打ち取り得点は与えない。逆にOBチームは先発の鎌水(学3)を攻め1回裏に2番古賀さん、3番角田さんの連続ヒットの後、4番桑田さんのショートゴロの間に1点を先制。続く2回も四球で出たランナーを8番山崎さん、9番坂野さんの連続ヒットで2点目をあげた。OBチームは3回から中谷さん(学6)がマウンドに上がり、2・3・4回と毎回ランナーを出すもののあと1本を打たせず0-2のまま試合は5回へ。5回表は守備の乱れもあり無死満塁と現役チームは反撃のチャンス。ここでバッターは5番の下岡。見事右中間へヒットを放ち2点タイムリー。その後もOBチームを攻めたて、この回一挙4点をあげ逆転に成功した。このまま現役チームが逃げ切るかと思われたが続く5回裏、内野陣のミス突きすぐに1点を返す。1点差となりOBチームのサヨナラ勝ちの雰囲気が高まっていく中、7回から現役チームのリリーフに上がった沼田(学1)が被安打1の素晴らしいピッチングでOB打線を抑え込んだ。現役チームは8・9回にも1点ずつ加え結果は6-3で現役チームの勝利となった。両チームともにエラーなどからの失点は少なからずありましたが、それ以上にOBチームが見事なダブルプレーを決めたり、ピンチの場面で川崎さん、中谷さん、高橋さん(学5)たちが三振で切り抜けたりした場面でグラウンドが大いに盛り上がったことが、個人的にはとても印象深く、このことが去年の親睦試合に続いて引き締まっ

た試合となった大きな要因ではないかと思いました。

試合の後は恒例の皿うどんパーティー。先程終わったばかりの試合の話などで盛り上がりながら、今年のOB会は終了しました。今年も先輩方の非常に元気な姿をみることができ、私たち現役側も非常にいい刺激をいただきました。これからも先輩方に負けないような元気な姿勢で練習や大会に挑んでいこうと思います。OBのみなさん、また来年も是非ご参加下さい。

最後に親睦試合のOB方の参加者を次に記しておきます。
投手：川崎雄太（平21）、中谷 勲（学6）、高橋毅行（学5）、捕手：古賀健太郎（平20）、川崎、1塁：角田正之（昭33）、坂田真人（平15）、番匠谷研吾（平22）、

2塁：板倉忠則（昭49）、桑田拓也（平21）、迎 武紘（平24）、3塁：山下輝樹（平24）、中本義人（平23）、遊撃：山本 豊（平13）、左翼：牛嶋信人（平15）、中堅：山崎達朗（平21）、荒木康平（平23）、右翼：坂野綱則（平21）、新田晃也（学6）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
現役	0	0	0	0	4	0	0	1	1	6
OB	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3



第 28 回薬学硬式庭球部 OB 会

小嶺 敬太（平24）

11月3日、4日の2日間、今年で第28回目を迎える薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

3日は長崎大学全学テニスコートにてOB対現役生による対抗戦を行いました。前週がかなり冷え込んだため、寒さも心配されましたが、この日は天気にも恵まれ、暖かい絶好のテニス日和でした。

山本先輩（院昭55）、松原先輩（昭58）、西田先生を始めとする先輩方にお忙しい中都合をつけて頂き、多くの試合をすることができました。今年は、山本先輩の中学校の同級生であり、テニス部発足時にテニスのご指導を頂いた百武さんと、卒業後久々の参加となられた古賀

先輩（平8）、梅北先輩（平11）の参加が特筆すべきことではないでしょうか。試合結果は、例年通りOB、OGの圧勝でした。体力では負けていないはずの現役生ですが、先輩方の技術と経験の前では、やはりまだまだで、さらに練習が必要ということだと思います。各試合後には、対戦したOB、OGの方からご助言を頂き、現役生にとっては大変有意義な経験となりました。

対抗戦後は、懇親会を海鮮魚市満寿美住吉店で行いました。参加者はOB、OG、現役生合わせて64名にのぼり大盛会となりました。今年は、松原先輩の教授就任祝いということで、記念の花束贈呈が行われました。その後は、現役生の自己紹介、OBの方々のお話と進み、現役

生にとってはテニスについて、また普段は聞けないような仕事についてのお話を聞いた貴重な時間であったと思います。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も28回を迎え、これか

らもさらに発展していくことと思われます。今年は残念ながら出席できなかった先輩方もご都合がつかましたら、来年のOB会に是非ご参加下さい。現役一同、心よりお待ち致しております。



平成 24 年 11 月 3 日 於 長崎大学全学テニスコート

平成 24 年薬学バスケットボール部 OB 戦

小林宏太郎（学部3年）

9月16日(日)に薬学バスケットボール部のOB対現役生による交流戦が行われました。以前はこのような機会はなかったそうですが昨年度からOB戦が行われ、今年で二回目となりました。昨年度と同じ九葉連の前に行く案も出ていましたが、なかなかOBの方との予定が合わず夏休み中の三連休に開催することになりました。

昨年度卒業の先輩方を中心に、さらにその先輩方といった方々に集まっていただき、普段の練習とはまた違った雰囲気での交流戦となりました。約半数のOBの方とは面識がなかったのですが、試合と試合の間の休憩時間には、教授の話や現在の薬学部での雰囲気のことなどについての話を積極的にしてくださり、試合が進むうちに少しずつ最初の緊張もほぐれていき、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

試合の結果は普段から練習している現役生が勝ちましたが、OBの中には現役生の時よりさらにバスケが上手になっている先輩や、身長を活かしたプレーで太刀打ちできない先輩など貫禄を見せつけられました。

交流戦の後には居酒屋で現役生とOBを交えての親睦会が行われました。翌日仕事のOBもいっしょに参加可能な方のみとなりましたが、社会人生活の話や、今の薬学部と先輩方の学生当時の薬学部の様子などいろいろ

な話で盛り上がりました。最後には先輩から面白ありがとうございましたお言葉をいただき解散となりました。

今回で第二回となった薬学バスケットボール部OB戦ですが、同じ学び舎で学んだという繋がりを大事にしてこれからも継続していけたらと思います。今回は残念ながら参加できなかったという方々も、来年にご都合がつかましたら是非ご参加ください。現役生一同お待ちしております。



平成 24 年 9 月 16 日 女子 長大総合体育館



平成 24 年 9 月 16 日 男子 長大総合体育館

薬学軟式庭球部 OB 会

菅 忠明 (学部 2 年)

12月8日に軟式庭球部OB会を開催いたしました。

今年は住吉の垂細垂酒場にてOB会を行いました。残念ながらOBの方々の都合が合わず、少ない人数での開催となってしまいました。しかし、社会人として長く働かれている方から、去年ご卒業された方まで、少ないながらも様々な年代の方に来ていただき、とても楽しい会となりました。

長崎大学薬学軟式庭球部員も年々増加の一途をたど

り、OB総勢300名を超えることとなりました。毎年お知らせ頂いているOBの方の近況報告では、さまざまな形で先輩方の御活躍を知ることができ、少しでも近づけるようにと、現役生一同、精進せねばと気持ちを新たにしております。今回出席して下さった先輩方、残念ながら出席できなかった先輩方、ご多忙だとは思いますが、もし来年都合がございましたら、是非ご参加下さい。現役生一同、心よりお待ちしております。



庶務報告

岸川 直哉 (平10)

民族文化財指定の「大分社羽田神楽」等の余興もあり、大変和やかで盛大な懇親会となりました。

○定例理事会

平成24年4月15日(土)13時00分より薬学部第二講義室で開催されました。伊豫屋偉夫同窓会長(昭41)の挨拶の後、平成23年度事業報告および決算報告、平成24年度事業計画案および予算案が討議されました。また、役員改選案に関する討議の結果、山中國暉氏(昭43)が新同窓会長として選出されました。

続いて、大分支部の野尻支部長(昭48)と阿部幹事(昭50)よりホテル白菊(大分県別府市)で開催される平成24年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

○平成24年度長薬同窓会定期総会

平成24年6月2日(土)17時00分より、大分県別府市のホテル白菊にて開催されました。総会では、開会挨拶の後、まず物故者への黙祷を行い、校歌斉唱と続きました。その後、阿部敏幸氏(昭50)を議長に選出して議事に入り、平成23年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。続いて、役員改選に関して討議が行われ原案どおり承認を得ました。引き続き、新役員より平成24年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原案どおり承認されました。また、来年度の総会開催地(佐世保市)について長崎県北支部相川支部長(昭48)より説明がありました。総会終了後、同じ会場で開かれた懇親会では、大分市選択無形

○支部長交代

・長崎県北支部 新支部長 相川康博氏(昭48)

平成24年1月22日 支部総会で決定

・福岡支部補陵会 支部長退任 (休会)

平成23年9月4日 支部総会で決定

以上の届け出がありました。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成24年8月5日(日)に、ぐびろが丘下防空壕跡地の原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役院生・学生で行ないました。また、11月4日(日)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局で行ないました。

○寄贈

木原隆英氏(院昭43)より、ご自身が共著されている著書2冊(「新版トキシコロジー」及び「神経発生毒性学概論」)及び図書1冊(「Casarett & Doull's Toxicology, The basic Science of Poisons」)の寄贈がありました。これらの寄贈図書は同窓会室に保管しております。

物故者氏名

前会報(51号)に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方(敬称略)

氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日
玉置文一	特	平23.10.23	田浦正巳	昭22	平24.9.15	吉田信	昭32	平24.3.14
森崎恭治	昭16.12	〃24.7.6	一瀬英親	〃22	〃24.9.-	横田(伊藤)由紀子	昭33	〃23.12.20
松田二郎	〃16.12	〃24.10.7	宮本徳次郎	〃23	〃24.3.9	白土宮人	〃34	〃24.5.2
井上義邦	〃18	〃22.10.6	城克己	〃23	〃24.3.11	大塚保雄	〃35	〃24.7.20
田中正紀	〃19	〃23.6.23	大曲貞豪	〃24	〃24.3.6	村山(木崎)俊一	〃45	〃24.5.30
江川仙治	〃19	〃23.12.17	伊藤(太田)邦子	〃25	〃24.2.1	小寺(前田)法子	〃48	〃18.8.15
野口義仁	〃19	〃24.1.26	島田正人	〃26	〃23.4.-	桐木(富田)由紀	〃48	〃24.3.25
栗原惇	〃19	〃24.3.19	高橋侃	〃30	〃23.2.15	白倉(中野)利恵	〃56	〃23.10.8
小泉淳二	〃19	〃24.3.19	山田(中尾)宣子	〃30	〃24.6.10	安藤(杉崎)薫	平7	〃24.11.10
向井健	〃19	〃24.7.19	田中(吹譯)照子	〃30	〃24.6.17	長門美智代	〃8	〃24.4.19
五島巖	〃22	〃23.8.31	中村秀男	〃31	〃24.5.25			
永田憲太郎	〃22	〃24.3.29	今泉喜世志	〃31	〃24.8.3			
計								34名

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	教授	植田 弘師	中国	23.11.18~23.11.22	Taiwan-Japan Joint Symposium on Cell Signaling and Gene Regulationに出席, 発表
研修	教授	植田 弘師	スペイン	23.11.28~23.12.3	International Association for the Study of Painに参加, 研究打ち合わせ
出張	教授	植田 弘師	アメリカ	24.3.13~24.3.18	The third International Symposium on Thymosins in Health and Diseaseに出席, 発表
出張	准教授	和田 光弘	スペイン	24.6.17~24.6.23	XV International Symposium on Luminescence Spectrometryに出席, 発表, 情報収集
出張	教授	黒田 直敬	スペイン	24.6.18~24.6.23	XV International Symposium on Luminescence Spectrometryに出席, 発表, 情報収集
出張	教授	田中 隆	イタリア	24.7.20~24.7.27	第26回国際ポリフェノール学会にて発表, 情報収集
研修	准教授	北里 海雄	中国	24.8.20~24.8.24	中国中山大学薬学院に共同研究の打ち合わせ, 研究交流と報告
出張	教授	植田 弘師	イタリア	24.8.24~24.9.2	The International Association for the Study of Painに出席, 発表, 情報収集
出張	教授	甲斐 雅亮	中国	24.10.15~24.10.19	The 6th Shanghai International Symposium on Analytical Chemistryに参加, 発表

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏名	所属研究室	備 考
24. 1. 1	昇 任	教授	田 中 隆	天然物化学	准教授より
24. 2. 1	採 用	助教	浅 井 将	薬品生物工学	有期雇用 (テニユア・トラック) 埼玉医科大学 医学部より
24. 3. 31	期間満了	助教	河 野 広 朗	感染分子薬学	
24. 3. 31	期間満了	准教授	手 嶋 無 限	病院薬学	
24. 3. 31	退 職	准教授	伊 藤 潔	薬品生物工学	九州保健福祉大学薬学部教授へ
24. 3. 31	定年退職	教授	中 島 憲一郎	医療情報解析学	長崎国際大学薬学部教授へ
24. 4. 1	採 用	教授	武 田 弘 資	細胞制御学	東京大学大学院薬学系研究科准教授より
24. 4. 1	採 用	准教授	大 山 要	薬品分析化学	テニユア・トラック助教より
24. 8. 1	採 用	准教授	田 中 義 正	分子薬理学	有期雇用 京都大学大学院医学研究科特定准教授より
24. 8. 1	採 用	助教	荒 木 良 介	病院薬学	有期雇用 長崎県病院企業団 上五島病院薬剤師より
24. 9. 1	採 用	准教授	城 谷 圭 朗	薬品生物工学	有期雇用 福島県立医科大学医学部准教授より
24. 11. 1	採 用	准教授	齋 藤 義 紀	天然物化学	徳島文理大学薬学部助教より

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日
甲第409号	博士(薬学)	マエダ ハジメ 前田 一	平成23年3月18日	甲第515号	博士(医学)	カク チョウマン 郭 朝万	平成24年3月19日
甲第410号	博士(薬学)	ヤマザワ リュウジ 山澤 龍治	平成23年3月18日	甲第516号	博士(医学)	リュウ カク 劉 格	平成24年3月19日
甲第487号	博士(薬学)	カワハタ タクミ 川畑 拓誠	平成24年2月22日	甲第536号	博士(薬学)	アラキ リョウスケ 荒木 良介	平成24年9月5日
甲第488号	博士(薬学)	ナナシマ カズタカ 七嶋 和孝	平成24年2月22日	甲第543号	博士(薬学)	ファン ヨンリン 黄 永林	平成24年9月20日
甲第496号	博士(薬学)	ホンゴウ マサフミ 北郷 真史	平成24年3月19日	甲第544号	博士(薬学)	マリク スリマン モハメド ムスタファ Malik Sulman Mohamed Mustafa	平成24年9月20日
甲第497号	博士(薬学)	ヨシダ サクラ 吉田 さくら	平成24年3月19日	甲第545号	博士(薬学)	ハシナ ヤスミン Hasina Yasmin	平成24年9月20日
甲第498号	博士(薬学)	ソネモトエミ 曾根本 恵美	平成24年3月19日	甲第546号	博士(薬学)	ジェレミア ワウエル ガディロア Jeremiah Waweru Gathirwa	平成24年9月20日

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成24年12月)

本部役員

会 長	山 中 國 暉	昭和43年	あおかた調剤薬局
副 会 長	田 原 務	昭和51年	うれり薬局
〃	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 長大病院薬剤部長
〃	七 種 均	昭和56年	N T T 西日本長崎病院薬剤科薬剤長
〃	中 嶋 幹郎	昭和57年	薬学部教授
〃	藤 島 さとみ	平成 3年	つばさ薬局
監 査	原 田 均	昭和51年	道ノ尾病院薬局長
庶務幹事	岸 川 直 哉	平成10年	薬学部准教授
会計幹事	椛 島 力	平成 4年	薬学部准教授
編集幹事	和 田 光 弘	平成 4年	薬学部准教授
幹 事	高 橋 圭 介	平成13年	薬学部助教
幹 事	松 尾 洋 介	平成15年	薬学部助教
幹 事	稲 嶺 達 夫	平成18年	薬学部助教
顧 問	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	

学年理事

昭和20年	池 田 保 彦	昭和44年	中 村 和 子	平成 3年	北 原 隆 志
昭和22年	田 崎 和 之	昭和45年	中 村 博	平成 4年	椛 島 本 力
昭和23年	中 原 潜	昭和46年	大 西 裕 子	平成 5年	森 永 真 仁
昭和24年	麻 生 忠 介	昭和47年	松 本 逸 郎	平成 6年	岩 永 有 理
昭和25年	塚 崎 邦 彦	昭和48年	井 手 清 輝	平成 7年	中 尾 裕 里
昭和26年	峰 唯 信	昭和49年	馬 場 満 輝	平成 8年	大 脇 裕 一
昭和28年	吉 田 一 美	昭和50年	北 村 美 江	平成 9年	大 平 良 文
昭和29年	野見山 季 治	昭和51年	原 田 均 司	平成10年	岸 川 直 哉
昭和30年	帆 士 辰 雄	昭和52年	池 崎 隆 司	平成11年	水 野 和 美
昭和31年	宮 崎 圭 介	昭和53年	佐々木 均	平成12年	松 永 隼 人
昭和32年	長 田 雅 子	昭和54年	濱 田 哲 也	平成13年	兒 玉 幸 修
昭和33年	西 脇 金 一 郎	昭和55年	大 田 佳 史	平成14年	小 西 宏 規
昭和34年	松 尾 幸 子	昭和56年	山 口 正 広	平成15年	原 田 周 平
昭和35年	木 下 敏 夫	昭和57年	高 良 真 也	平成16年	牟 田 響 子
昭和36年	武 田 成 子	昭和58年	宮 崎 幹 雄	平成17年	高 原 規 子
昭和37年	吉 田 研 次	昭和59年	中 村 忠 博	平成18年	永 井 潤 仁
昭和38年	岡 邦 彦	昭和60年	塩 田 英 雄	平成19年	永 井 雄 仁
昭和39年	鈴 木 隆 治	昭和61年	本 多 隆 隆	平成20年	細 筒 井 井 一
昭和40年	松 村 祐 子	昭和62年	森 川 隆	平成21年	筒 桑 田 拓 也
昭和41年	平 山 文 俊	昭和63年	神 山 朝 光	平成22年	三 浦 裕 人
昭和42年	井 上 一 顕	平成 1年	白 川 奈 奈 子	平成23年	中 本 義 人
昭和43年	井 上 志 郎	平成 2年	山 本 稔	平成24年	川 鍋 早 紀

院 1～院 5 (昭和42年～昭和46年) 富永 義則 (昭和46年)
 院 6～院10 (昭和47年～昭和51年) 高橋 正克 (昭和49年)
 院11～院15 (昭和52年～昭和56年) 大木 豊 (昭和54年)
 院16～院20 (昭和57年～昭和61年) 中嶋 幹郎 (昭和59年)
 院21～院25 (昭和62年～平成 3年) 本多 雅幸 (平成 1年)
 院26～院30 (平成 4年～平成 8年) 富田 守 (平成 4年)
 院31～院35 (平成 9年～平成13年) 原田 祐樹 (平成 9年)
 院36～院43 (平成14年～平成18年) 大山 要 (平成14年)
 院44～院53 (平成19年～平成23年) 竹尾 公秀 (平成19年)
 院54～院56 (平成24年～) 上野まどか (平成24年)

長薬同窓会支部一覧

(平成24年11月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	濱 田 哲 也 (昭 54)
長崎県北支部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	宮 崎 圭 介 (昭 31)
長崎県央支部	支部長	中 村 和 子 (昭 44)
佐賀支部若楠会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部	支部長	
北九州支部	支部長	芥 野 岑 男 (昭 46)
大 分 支 部	支部長	野 尻 敏 博 (昭 48)
宮崎支部日向浦陵会	会 長	田 中 重 雄 (昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜一郎 (院昭55)
山 口 支 部	支部長	若 松 輝 明 (昭 45)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三千代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚 (昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	梶 野 繁 (昭 42)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	樋 口 宗 司 (昭 42)
沖 縄 支 部	支部長	藤 本 勝 喜 (昭 31)
北 海 道 支 部	支部長	

平成23年度長薬同窓会収支決算報告

平成24年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	5,933,600	通 信 費	1,058,120
会 費 (延2454名)	7,362,000	総会案内・会報送送料	614,006
入 会 金 等	1,240,000	振替加入者負担金	207,200
預 金 利 息	1,286	事務連絡郵便料	172,130
雑 収 入	2,700	電報電話料	64,784
		印 刷 費	992,741
		会 報 他 印 刷 費	992,741
		会 合 費	46,139
		理事会その他会合費	46,139
		旅 費	393,660
		会 長 出 張 費	233,260
		役 員 そ の 他 出 張 費	160,400
		補 助 費	440,000
		総 会 補 助 金	300,000
		支 部 そ の 他 補 助 金	140,000
		維 持 管 理 費	163,654
		原 爆 慰 霊 碑	149,124
		小 野 島 記 念 碑	14,530
		事 務 費	107,913
		事 務 用 品 費	17,927
		電 算 機 費 用	89,986
		人 件 費	2,710,194
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	33,600
		臨 時 雇 員 手 当	1,646,594
		雑 費	425,608
		会 員 見 舞 弔 慰 金	145,315
		そ の 他	280,293
		次 年 度 繰 越 金	8,201,557
合 計	14,539,586	合 計	14,539,586

会計幹事、椛島力氏立会のもと、平成23年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、上記の通り相違ありません。

平成24年4月10日

監 査 木 下 敏 夫 

平成24年度長薬同窓会予算

平成24年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	8,201,557	通 信 費	1,380,000
会 費 (延2600名)	7,800,000	総会案内・会報発送料	680,000
入会金等(6年制40名+4年制43名)	1,156,000	振替加入者負担金	300,000
預 金 利 息	1,800	事務連絡郵便料	300,000
		電報電話料	100,000
		印 刷 費	1,200,000
		会報他印刷費	1,200,000
		会 合 費	60,000
		理事会その他会合費	60,000
		旅 費	1,100,000
		会 長 出 張 費	400,000
		役員その他出張費	700,000
		補 助 費	850,000
		総会および支部会補助金	600,000
		そ の 他 補 助 金	250,000
		維 持 管 理 費	210,000
		原 爆 慰 霊 碑	180,000
		小 野 島 記 念 碑	30,000
		事 務 費	250,000
		事 務 用 品 費	50,000
		電 算 機 費 用	200,000
		人 件 費	3,064,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	34,000
		臨 時 雇 員 手 当	2,000,000
		雑 費	550,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	150,000
		そ の 他	400,000
		予 備 費	8,495,357
合 計	17,159,357	合 計	17,159,357

同窓会事務局だより

事務局は11月、12月は会報の発行に加え、小野島記念碑の清掃、長崎大学・全学同窓会共催のホームカミングデーなどの行事があり、1年のうちで、一番慌ただしい季節です。会報を無事に発送し、新年を迎えます。

各支部総会、学年同窓会、サークルのOB会、研究室同門会等々……開催の場合、事務局では、名簿と宛名シールを作成しお送りしています。開催後に、折り返しご住所等変更のご連絡を頂いたときには大変嬉しく、皆様のご協力に感謝しています。

それでも、会報や定期総会の案内をお送りすると、毎回50通近く所在不明により返送されてきます。勤務先やご実家へ再送し、新しいご住所をご連絡いただくようお願いしていますが、不明の方が出てきます。

来年度は会員名簿の発行も予定しております。ご住所等の変更がある方はお早めにご連絡ください。

また、会費の納入が年々減少している状況です。同窓会報・会員名簿の発行、支部総会開催時の補助、宛名シール等の提供、在学生への支援等も行っています。コンビニからも振込みができますので、何卒会費納入にご協力をお願い申し上げます。

武次 郁子 記

編集後記

今回も多くの同窓生よりクラス会の開催などご寄稿いただき内容豊富な同窓会誌となったと思っております。心から感謝申し上げます。私自身この一年を振り返ってみますと環境の大きな変化もあり、周りの人たちに助けられた感謝の一年でした。世界ではロンドンオリンピックの開催、主要国での指導者の交代、世界人口70億人突破などがあり、国内でも領土問題、安全保障の問題、原発問題など大きな話題（これらは検索で調べました）があったにも関わらずあまり記憶に残ってないという状態です。皆様におかれましてはどのような1年でしたでしょうか？同窓会誌を片手にこの一年を振り返る年末も悪くないと思います。来年もよろしく願いいたします。

和田 光弘 記

平成24年12月20日印刷

平成24年12月25日発行

長薬同窓会報

編集 和田 光弘

発行 長薬同窓会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL 095-844-6383 (直通)

095-819-2471 (ダイヤルイン)

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号870-0913)

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-73-7288



長崎大学薬学部 長薬同窓会